

加西市都市計画マスタープラン (現況編)

令和3年 12 月
加西市

目次

(1) 自然的条件	1
1) 位置	1
2) 地形・地質	2
3) 気候	3
4) 植生	4
(2) 歴史的条件	5
1) 都市形成の歴史	5
2) 沿革	5
(3) 社会的条件	6
1) 人口及び世帯数	6
2) 産業	14
(4) 環境条件	22
1) 安全	22
2) 災害	24
3) 保険	26
4) 利便	28
5) 快適	32
(5) 都市の構造	35
1) 交通体系	35
2) 土地利用と土地利用規制	36
3) 建物	47
4) 移動	49

(1) 自然的条件

1) 位置

本市は、兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置し、市域面積は150.22km²で、東西12.4km、南北19.8kmの広がりをもつ。東は小野市および加東市に、西は姫路市および福崎町に、南は加古川市に、そして北は西脇市、多可町および市川町にそれぞれ隣接しています。

また、8市3町（加西市、明石市、加古川市、西脇市、三木市、高砂市、小野市、加東市、稲美町、播磨町及び多可町）で構成される東播磨地域や3市1町（加西市、加東市、西脇市、多可町）で構成される北播磨広域定住自立圏に属しています。

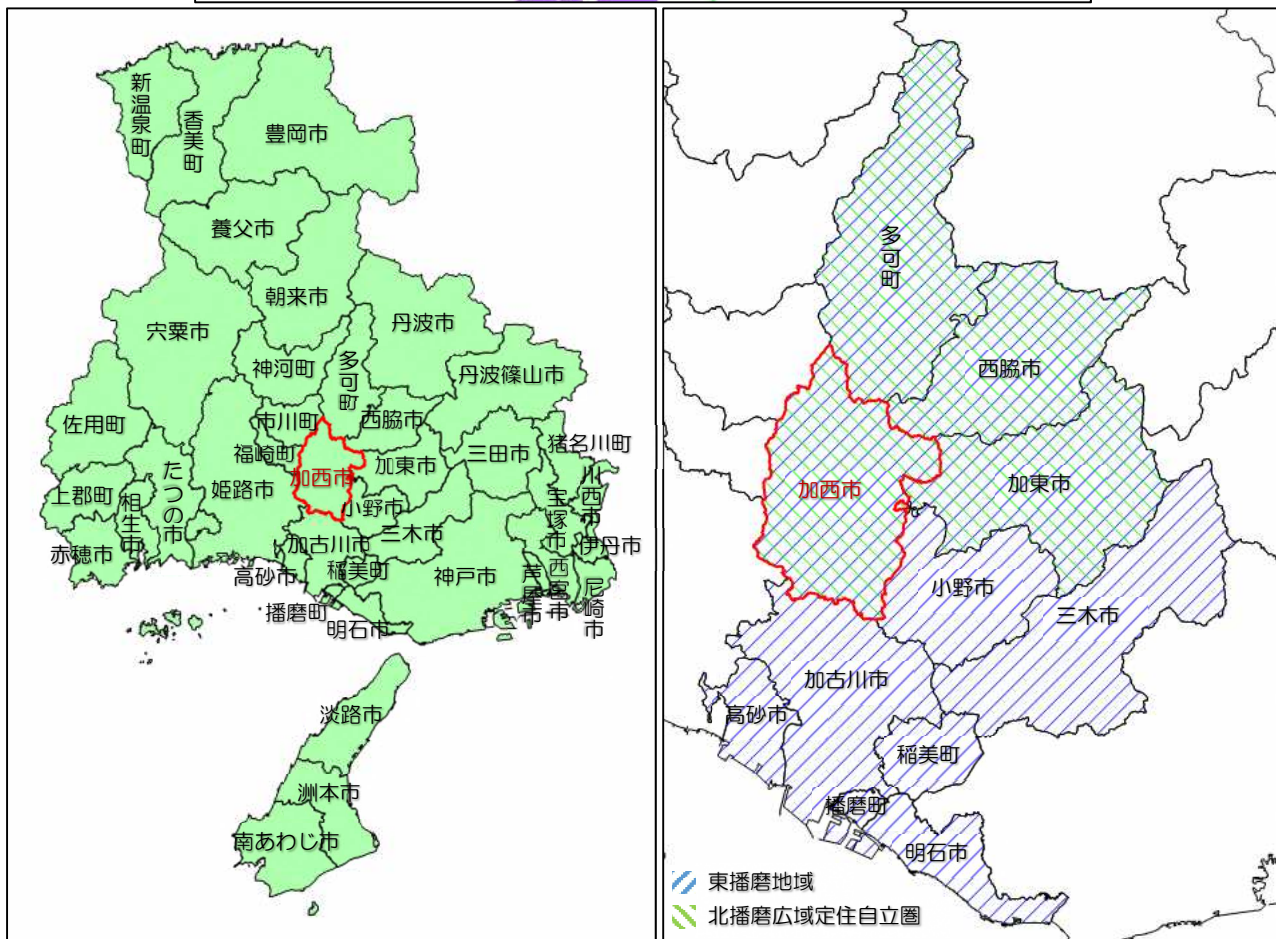


図 市の位置

資料：国土数値情報

2) 地形・地質

本市の北部には古生層の山地（海拔 300～500メートル）が連なり、中国山地の裾野を形成し、そこを源に発する普光寺川、万願寺川、そして下里川の3河川は、丘陵・段丘面を刻み沖積低地を形成しながら万願寺川に合流し、さらに加古川に合流しています。

また、本市の中心部を流れる万願寺川の東側には広大な青野ヶ原台地が、西側には鶉野台地が広がり、播磨内陸地域最大の平坦地を形成しています。特に、この一帯は、ため池が数多く点在し、県下でも有数の密集地帯となっています。

一方、本市の南部は、中生代の火山活動で形成された凝灰岩類、流紋岩類を母岩とする低い山地（海拔 200～250メートル）を形成しています。

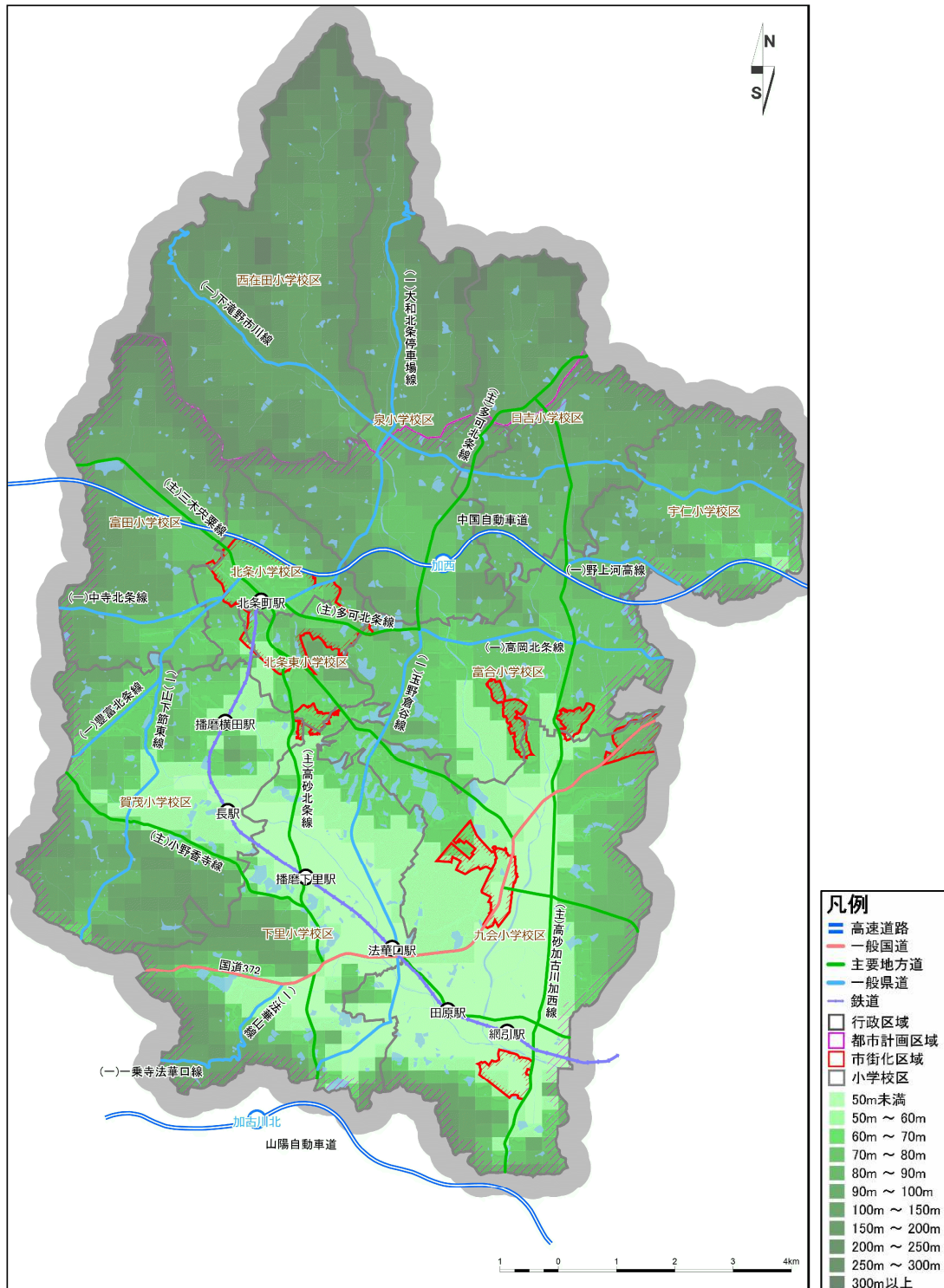
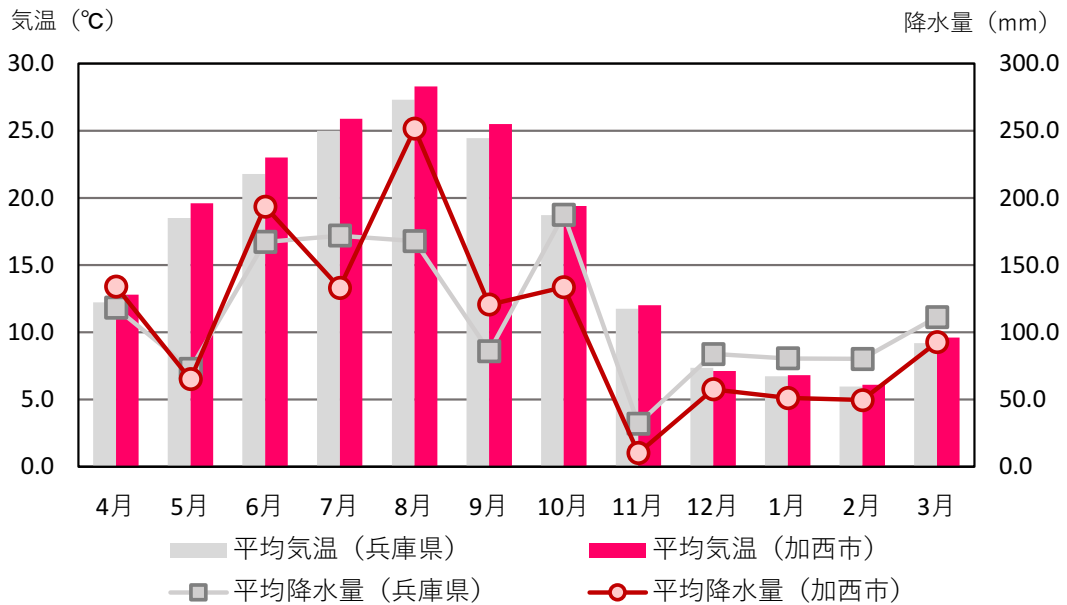


図 標高5次(250m)メッシュ

資料：国土数値情報

3) 気候

本市の年間平均気温は 16.3℃であり、兵庫県平均 (15.7℃) よりも高く、年間平均降水量も 107.6mm であり、兵庫県平均 (113.2mm) よりも少なく、県内でも温暖な気候で雨の少ない都市となっています。



・年間平均気温 : 16.3℃ (加西市)、15.7℃ (兵庫県)
 ・年間平均降水量 : 107.6mm (加西市)、113.2mm (兵庫県)

図 気温、降水量の月ごとの推移

資料 : 加西市、気象庁

4) 植生

環境省の植生調査によると、自然植生としてはカナメモチーコジイ群集が広く分布しています。

また、代償植生（人間の影響によって、立地本来の自然植生が様々な人為植生に置き換わったもの）としては、モチツツジーアカマツ群集や、アバマキーコナラ群集が広く分布しています。

河辺・湿原植生をみるとヒルムシロクラスやヨシクラスが分布しています。

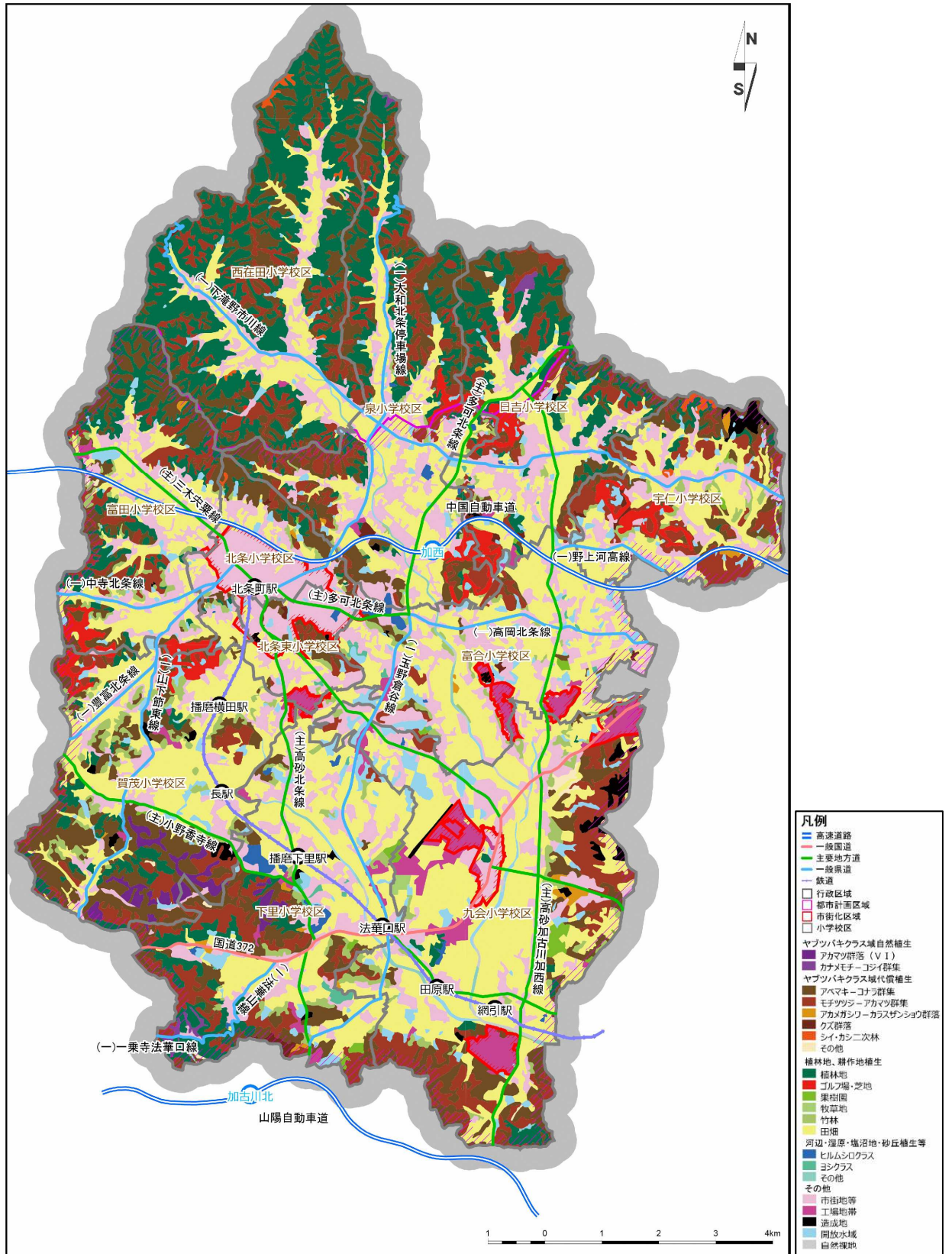


図 植生図

資料：環境省

(2) 歴史的条件

1) 都市形成の歴史

本市は、古代より生活の営みが始まっており、逆池、善防池、亀ノ倉池などにある遺跡からは、先土器時代の石器をはじめ多数の出土品がみられます。特に、古墳時代には、「針間鴨国」として栄え、豪族が強力な力を持ち、玉丘古墳をはじめ 300 基にもものぼる古墳群を今日に伝えています。そして、鴨国は、都に通じており、都の高い文化がいち早く導入され、古法華や法華山一乗寺にその面影をみることができます。

平安時代から鎌倉時代になると、人々の間に深く仏教が信仰されるようになり、吸谷の石造塔婆をはじめ石造品、石仏の名品がたくさん作られたことから、加西の文化の特徴は、石造文化にあるといわれています。

室町時代からは武家時代の戦場として、小谷城、善防山城などの築城された様子が赤松氏の軍記の中にみられます。

江戸時代は、北条町などに交易の中心として市場町ができ、広い商業圏を形成していました。

北条町は、古くから住吉神社、酒見寺の門前町として、また山陰、山陽を結ぶ商人の宿場町として栄えました。

明治時代以降は、江戸以来の播州織の町として、西脇とともに一大中心地となりました。また、戦後、三洋電機発祥の地として電機産業が栄え、現在は三洋電機の下請けとして創業し独自のノウハウ・技術を蓄積して発展した金属製品製造業などの工場が加西市の産業を支えています。

2) 沿革

明治 22 年に市町村制施行によって、加西郡は、北条町、富田村、加茂村、下里村、九会村、富合村、多加野村、西在田村、在田村、芳田村、大和村の 1 町 10 村に再編成されました。町村合併促進法制定後の昭和 29 年に、芳田村は西脇市、大和村は八千代町に合併後、昭和 30 年 1 月 15 日に、北条町、富田村、加茂村、下里村の 1 町 3 村は合併し北条町となりました。次いで、3 月 1 日には多加野村、西在田村、在田村の 3 村が合併して泉町となり、3 月 30 日には九会村、富合村の 2 村が合併し加西町となりました。そして、昭和 42 年 4 月 1 日に、北条町、泉町、加西町の 3 町が合併し、加西市が誕生、兵庫県下で 21 番目に市制を施行し、現在に至ります。

表 市町村合併の経緯

	明治 22 年 (1889 年)	昭和 30 年 (1955 年)	昭和 42 年～ (1967 年)～
加西郡	北条町	北条町	加西市
	富田村		
	賀茂村		
	下里村		
	九会村	加西町	
	富合村		
	多加野村	泉町	
	西在田村		
	在田村		
	芳田村	※昭和 29 年 (1954 年) に西脇市に合併	
大和村	※昭和 29 年 (1954 年) に八千代町 (現：多可町) に合併		

(3) 社会的条件

1) 人口及び世帯数

①人口及び世帯数

・令和2年速報値の総人口 42,750 人（ピーク昭和60年 52,107 人）、世帯数 16,146 世帯、世帯人員 2.65（ピーク昭和45年 4.41）

国勢調査によって本市の人口の推移を見ると、昭和60年の52,107人をピークとして以降は減少傾向が続いており、令和2年の速報値では42,750人となっています。

一方、世帯数は現在も増加を続けており、令和2年現在の総世帯数は、16,143世帯となりました。それに伴い、一世帯当たり人員は、昭和45年の4.41人/世帯から令和2年には2.65人/世帯にまで減少しています。

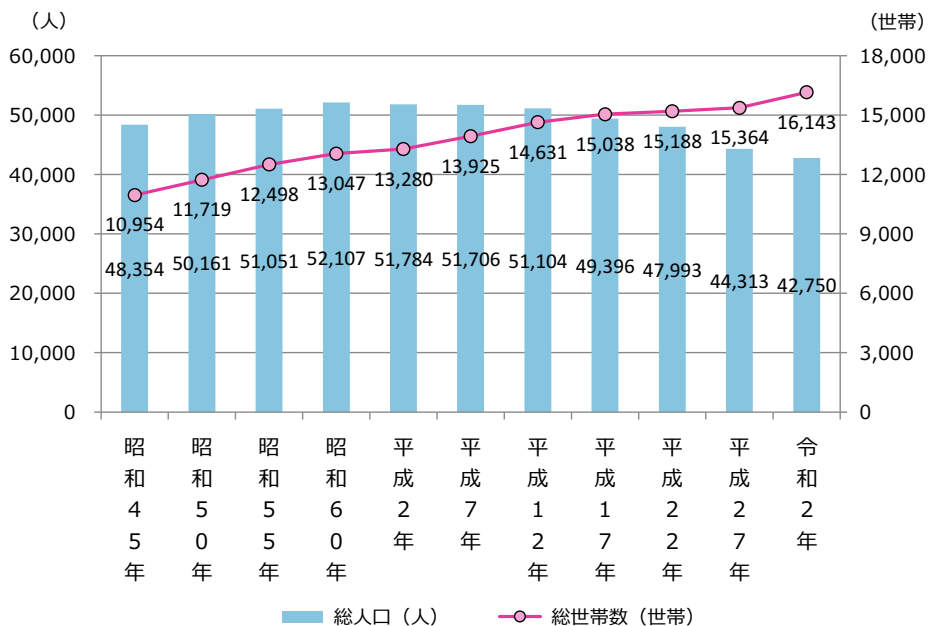


図 人口及び世帯数の推移

資料：国勢調査

表 人口及び世帯数の推移

	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総人口 (人)	48,354	50,161	51,051	52,107	51,784	51,706	51,104	49,396	47,993	44,313	42,750
総世帯数 (世帯)	10,954	11,719	12,498	13,047	13,280	13,925	14,631	15,038	15,188	15,364	16,143
一世帯当たり人員 (人/世帯)	4.41	4.28	4.08	3.99	3.90	3.71	3.49	3.28	3.16	2.88	2.65

資料：国勢調査

②年齢構成別人口

- ・ 老年人口（65歳以上人口）は一貫して増加傾向、年少人口（15歳未満人口）は10%以上で推移
- ・ 令和3年に北条地域の人口が増加

人口の減少と同時に、高齢化と少子化の進行も顕著であり、平成2年までは年少人口（15歳未満人口）が老年人口（65歳以上人口）を上回っていましたが、平成7年に逆転してからは高齢化が急速に進み、平成27年には老年人口が年少人口の2.6倍強に達しています。

生産年齢人口（15～64歳人口）も平成7年以降は減少に転じており、近年その減少傾向が強まっています。

平成27年国勢調査の結果を兵庫県との値と比較すると、老年人口比率は兵庫県の値よりも高く、生産年齢人口比率と年少人口比率とは、兵庫県の値よりも低くなっています。

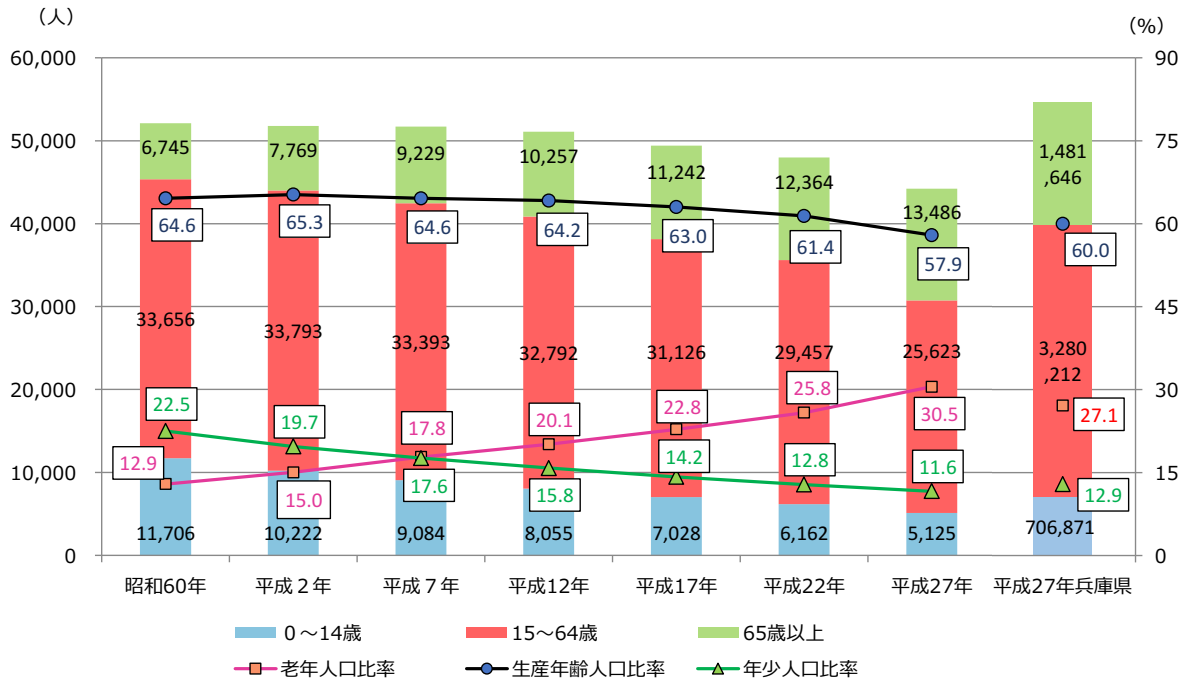


図 年齢構成別人口の推移

資料：国勢調査

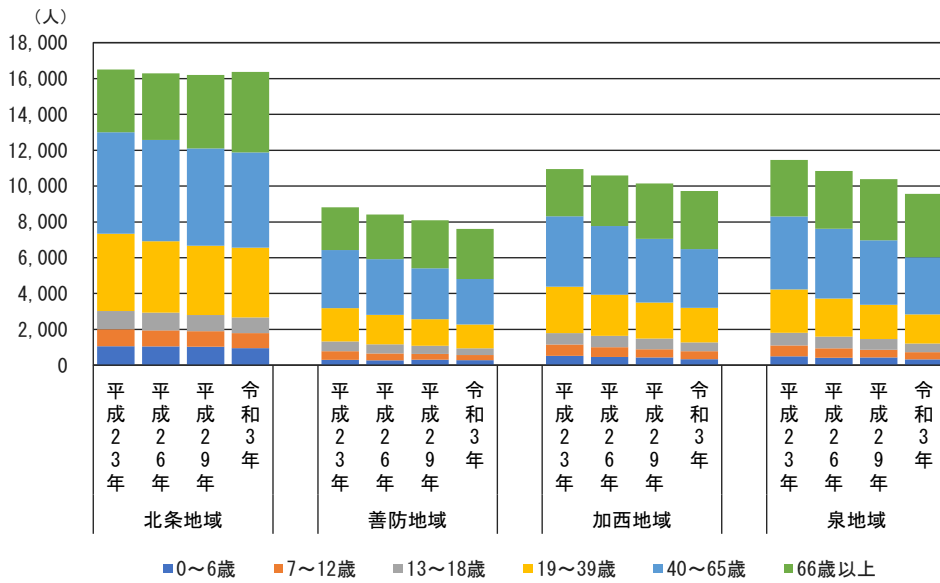
表 年齢構成別人口の推移

		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	参考・兵庫県 (平成27年)
0~14歳	人口(人)	11,706	10,222	9,084	8,055	7,028	6,162	5,125	706,871
	構成比(%)	22.5	19.7	17.6	15.8	14.2	12.8	11.6	12.9
15~64歳	人口(人)	33,656	33,793	33,393	32,792	31,126	29,457	25,623	3,280,212
	構成比(%)	64.6	65.3	64.6	64.2	63.0	61.4	57.9	60.0
65歳以上	人口(人)	6,745	7,769	9,229	10,257	11,242	12,364	13,486	1,481,646
	構成比(%)	12.9	15.0	17.8	20.1	22.8	25.8	30.5	27.1

(注) 年齢不詳は除く

資料：国勢調査

参考までに、市内4地域ごとの年齢階層別人口の推移を見ると、平成23年から令和3年までの人口増減率は、北条地域が-0.84%、善防地域が-13.77%、加西地域が-11.18%、泉地域が-16.60%となっており、北条地域を除く3地域で人口減少が進んでいます。どの地域も若い年齢層の減少と高齢化が進展しています



(参考) 図 地域別・年齢階層別人口の推移

資料：住民基本台帳

(参考) 表 地域別・年齢階層別人口の推移

	北条地域				善防地域				加西地域				泉地域			
	平成23年	平成26年	平成29年	令和3年	平成23年	平成26年	平成29年	令和3年	平成23年	平成26年	平成29年	令和3年	平成23年	平成26年	平成29年	令和3年
0～6歳	1,057	1,043	1,039	956	305	277	320	291	533	464	431	346	500	422	428	322
7～12歳	956	897	863	847	477	385	309	272	621	547	464	430	603	515	434	402
13～18歳	1,016	995	901	860	553	507	458	374	639	623	597	504	713	665	602	490
19～39歳	4,314	3,990	3,867	3,901	1,857	1,643	1,483	1,345	2,588	2,312	2,006	1,924	2,412	2,124	1,918	1,634
40～65歳	5,649	5,642	5,433	5,315	3,239	3,102	2,840	2,523	3,931	3,818	3,562	3,279	4,078	3,898	3,598	3,179
66歳以上	3,511	3,727	4,098	4,485	2,385	2,501	2,677	2,797	2,634	2,823	3,093	3,239	3,159	3,221	3,404	3,537
合計	16,503	16,294	16,201	16,364	8,816	8,415	8,087	7,602	10,946	10,587	10,153	9,722	11,468	10,845	10,384	9,564

資料：住民基本台帳

(参考) 表 地域別・年齢階層別人口増減率の推移

	北条地域				善防地域				加西地域				泉地域			
	平成23～26年	平成26～29年	平成29～令和3年	平成23～令和3年	平成23～26年	平成26～29年	平成29～令和3年	平成23～令和3年	平成23～26年	平成26～29年	平成29～令和3年	平成23～令和3年	平成23～26年	平成26～29年	平成29～令和3年	平成23～令和3年
0～6歳	-1.32	-0.38	-7.99	-9.56	-9.18	15.52	-9.06	-4.59	-12.95	-7.11	-19.72	-35.08	-15.60	1.42	-24.77	-35.60
7～12歳	-6.17	-3.79	-1.85	-11.40	-19.29	-19.74	-11.97	-42.98	-11.92	-15.17	-7.33	-30.76	-14.59	-15.73	-7.37	-33.33
13～18歳	-2.07	-9.45	-4.55	-15.35	-8.32	-9.66	-18.34	-32.37	-2.50	-4.17	-15.58	-21.13	-6.73	-9.47	-18.60	-31.28
19～39歳	-7.51	-3.08	0.88	-9.57	-11.52	-9.74	-9.31	-27.57	-10.66	-13.24	-4.09	-25.66	-11.94	-9.70	-14.81	-32.26
40～65歳	-0.12	-3.70	-2.17	-5.91	-4.23	-8.45	-11.16	-22.11	-2.87	-6.71	-7.94	-16.59	-4.41	-7.70	-11.65	-22.05
66歳以上	6.15	9.95	9.44	27.74	4.86	7.04	4.48	17.27	7.18	9.56	4.72	22.97	1.96	5.68	3.91	11.97
合計	-1.27	-0.57	1.01	-0.84	-4.55	-3.90	-6.00	-13.77	-3.28	-4.10	-4.25	-11.18	-5.43	-4.25	-7.90	-16.60

資料：住民基本台帳

③人口動態

- ・自然増減の増減幅は拡大傾向、社会増減の増減幅は減少傾向
- ・転入出者は主に加古川市、神戸市、加東市、小野市

自然増減の状況は、平成 14 年までは若干の自然増を示していましたが、平成 15 年以降は自然減に転じ、少しずつ自然減の幅が大きくなってきて、近年は年間約 300 人の減少が続いています。

一方、社会増減の状況は、ずっと自然減を上回る減少幅で推移してきましたが、平成 25 年頃以降は減少幅が小さくなり、平成 30 年には転入者数が転出者数を上回る社会増を記録しました。その後は再び社会減の傾向を見せています。

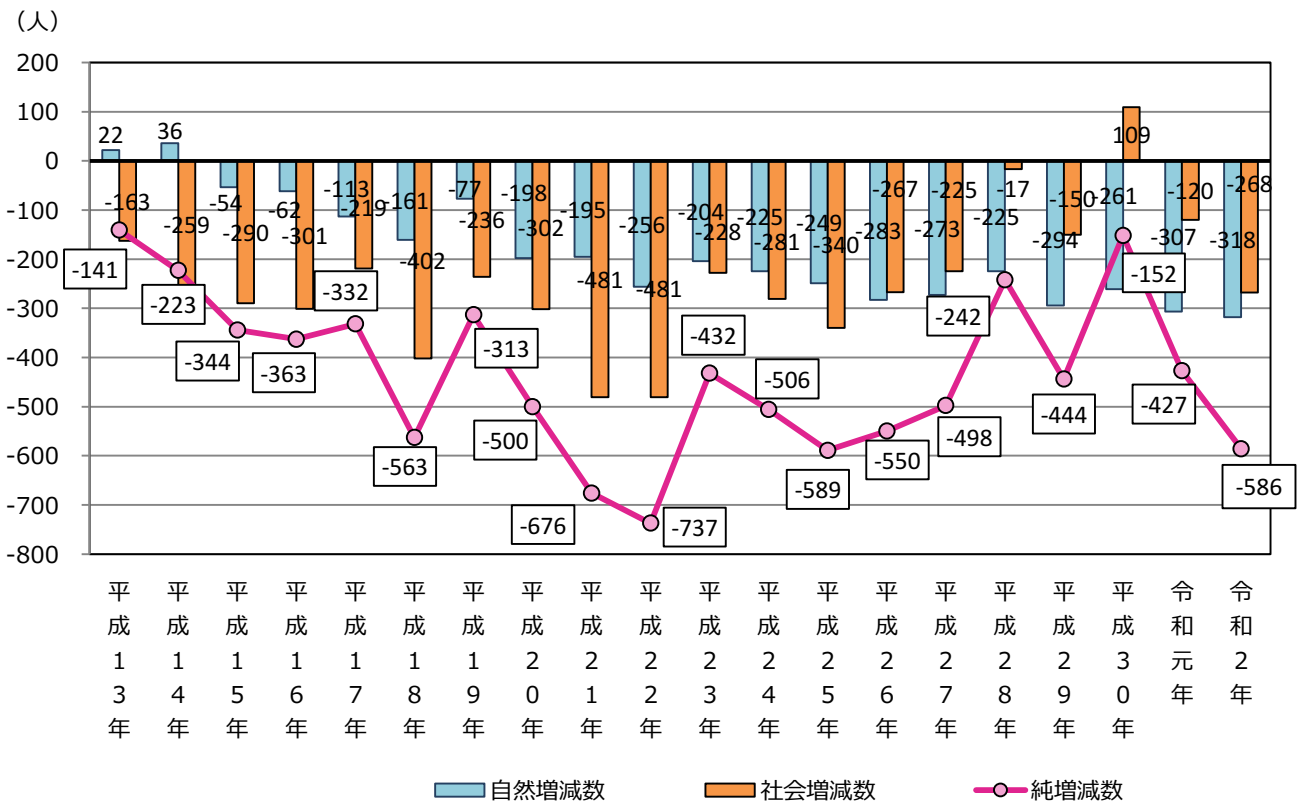


図 社会増減、自然増減の推移

資料：市区町別主要統計指標（兵庫県企画県民部ビジョン局統計課）

表 社会増減、自然増減の推移

--

資料：市区町別主要統計指標（兵庫県企画県民部ビジョン局統計課）

社会増減の内訳となる転入、転出の状況を、平成 27 年国勢調査の結果（平成 22 年から 27 年までの 5 年間にわたる加西市の転入出状況）を見ると、転入元、転出先ともに姫路市との結びつきが最も強く、以下、加古川市、神戸市、加東市、小野市との転入出が上位を占めています。

また、距離的にかなり遠い大阪市との間で、近隣市町と肩を並べるほどの転入出があります。

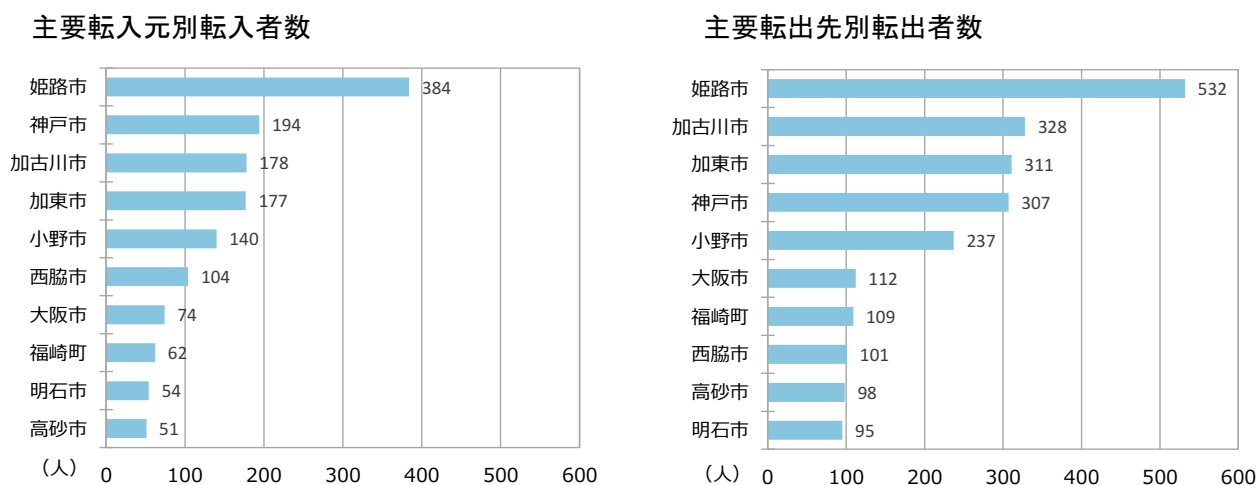


図 転入者・転出者の状況（平成 22 年～平成 27 年の 5 年間）

資料：平成 27 年国勢調査人口移動集計

④昼間・夜間人口

・平成27年の昼夜間人口率105.3%（県内2番目）であり、継続して増加傾向

夜間人口、昼間人口とも、平成2年以降ほぼ一貫して減少傾向にあります。夜間人口の減少率の方が高いため、昼夜間人口率は平成7年以降上昇を続けており、平成22年には昼夜間人口率が100%を超えるようになり、平成27年には昼夜間人口率は105.3%となりました。本市は播磨地域内では加東市に次ぐ昼間人口率の高い市となっています。

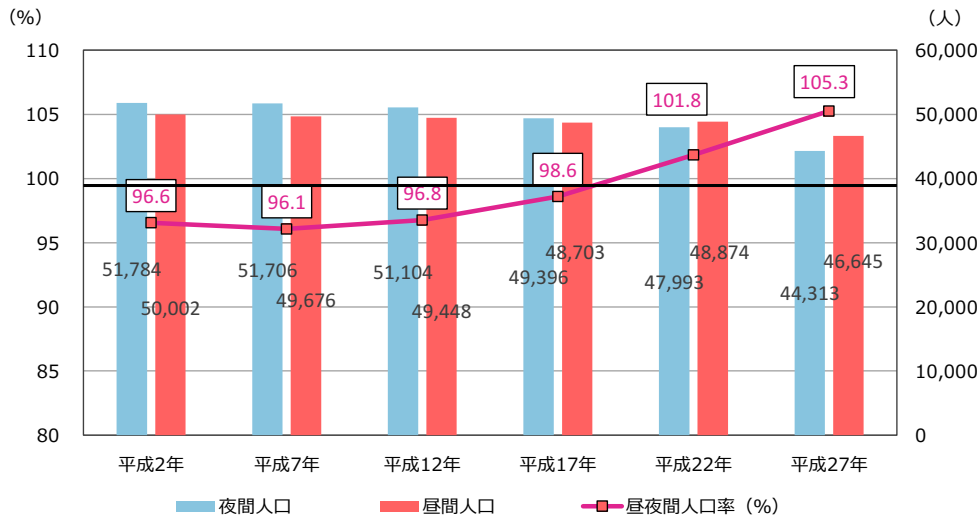


図 昼間・夜間人口の推移

資料：国勢調査

表 昼間・夜間人口の推移

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
夜間人口	51,784	51,706	51,104	49,396	47,993	44,313
昼間人口	50,002	49,676	49,448	48,703	48,874	46,645
昼夜間人口率 (%)	96.6	96.1	96.8	98.6	101.8	105.3

資料：国勢調査

表 播磨地域各市の昼夜間人口率（平成27年）

	夜間人口 (人)	昼間人口 (人)	昼夜間人口率 (%)
加東市	40,310	44,591	110.6
加西市	44,313	46,645	105.3
小野市	48,580	48,868	100.6
姫路市	535,664	538,513	100.5
高砂市	91,030	91,489	100.5
三木市	77,178	76,592	99.2
相生市	30,129	29,824	99.0
たつの市	77,419	74,509	96.2
赤穂市	48,567	46,612	96.0
西脇市	40,866	38,872	95.1
宍粟市	37,773	35,386	93.7
明石市	293,409	262,799	89.6
加古川市	267,435	236,758	88.5

資料：国勢調査

⑤人口集中地区（DID）

- ・ DID 人口密度は、概ね 45 人程度の横ばいで推移
- ・ 平成 27 年の DID 面積は 194ha、DID 人口は 8,545 人でピーク時の平成 7 年に近づくよう推移

DID 人口密度は、昭和 60 年に約 54 人程度でありましたが、その後減少し概ね 45 人程度の横ばいで推移しています。

DID 面積と人口は平成 7 年にピークを迎え、その後減少しましたが、平成 27 年にはピーク時の平成 7 年に近づくように面積は 194ha、人口は 8,545 人となっています。

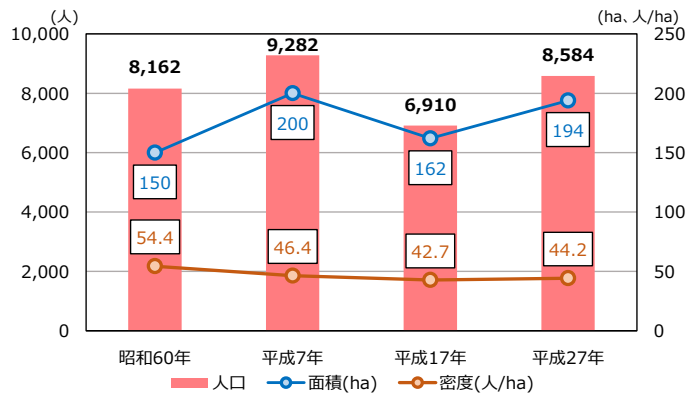
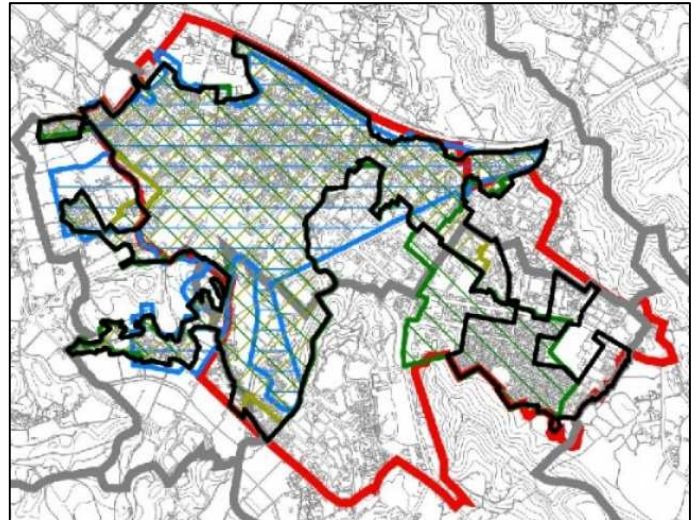
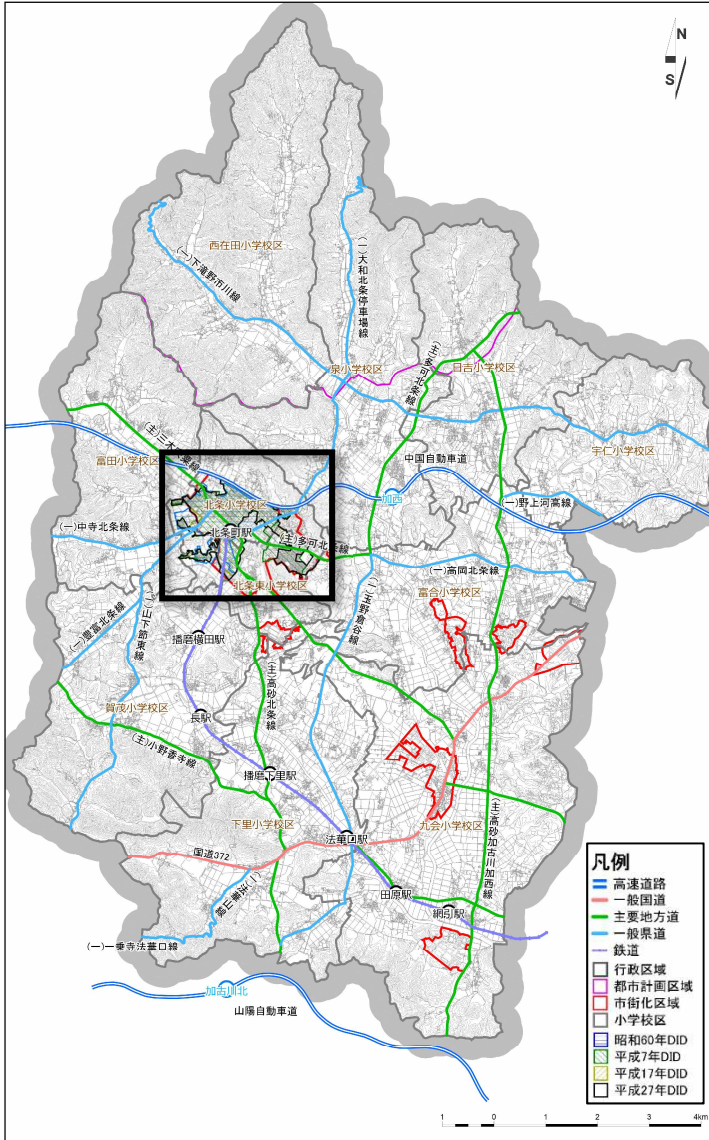


図 人口集中地区の推移

資料：国土数値情報

⑥将来人口

・将来人口の総数は一貫して減少傾向であり、老年人口（65歳以上人口）割合も一貫して増加傾向にあるが、老年人口（65歳以上人口）の実績値は令和7年（2025）をピークに減少すると予測

国立社会保障・人口問題研究所が発表した日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）によれば、本市の人口は今後も減少が続くと予測されており、平成27年の実績（44,313人）から30年後の令和27年にはほぼ2/3の30,705人になると推計されています。

人口が減少すると同時に、老年人口比率の上昇、年少人口比率の低下の傾向も続き、令和17年には老年人口比率が40%を超えるという推計結果が示されています。

これに対し、本市の第2期加西市地域創生戦略で示された人口ビジョンでは、若年層の流出抑制及びU・J・Iターン等の環流促進による社会増、出生率の上昇による自然減の縮小などの施策を進めることを前提にして、2060（令和37）年における人口の目標として「3万6千人を目指す」としています。

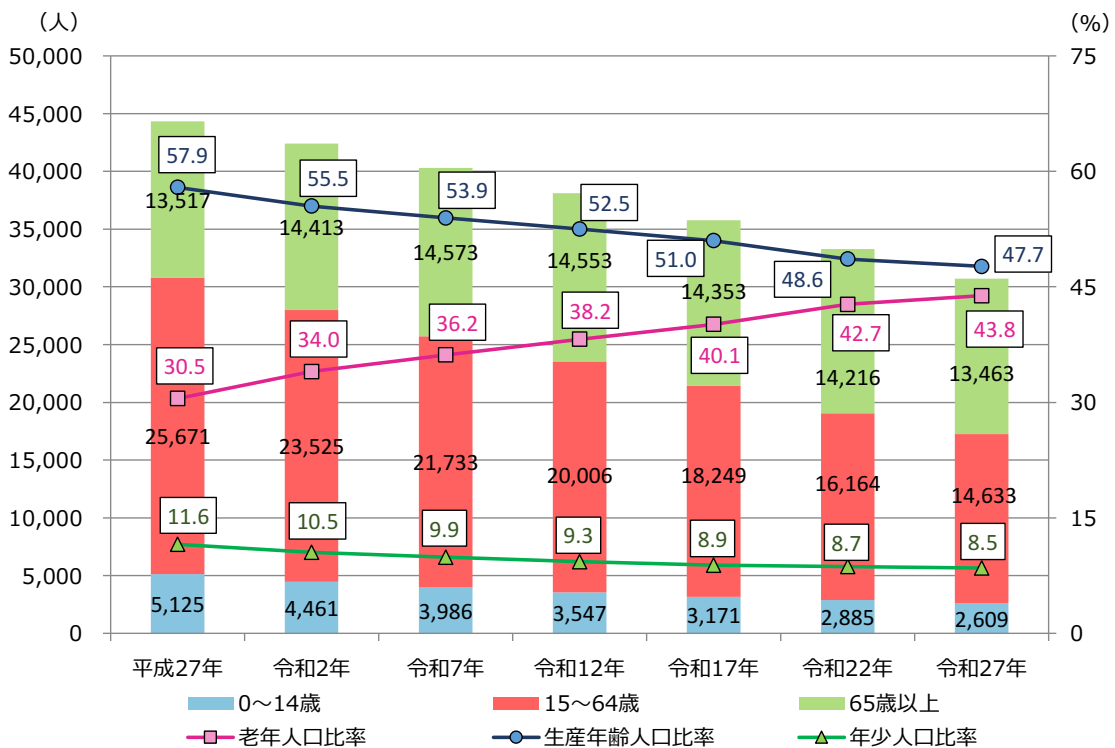


図 年齢構成別人口と割合の将来推計 (グラフ)

資料：日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）／国立社会保障・人口問題研究所

表 年齢構成別人口と割合の将来推計

	2015年 平成27年	2020年 令和2年	2025年 令和7年	2030年 令和12年	2035年 令和17年	2040年 令和22年	2045年 令和27年
0~14歳	5,125	4,461	3,986	3,547	3,171	2,885	2,609
15~64歳	25,671	23,525	21,733	20,006	18,249	16,164	14,633
65歳以上	13,517	14,413	14,573	14,553	14,353	14,216	13,463
年少人口比率	11.6	10.5	9.9	9.3	8.9	8.7	8.5
生産年齢人口比率	57.9	55.5	53.9	52.5	51.0	48.6	47.7
老年人口比率	30.5	34.0	36.2	38.2	40.1	42.7	43.8

資料：日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）／国立社会保障・人口問題研究所

■第2期加西市地域創生戦略において想定する将来人口の推移

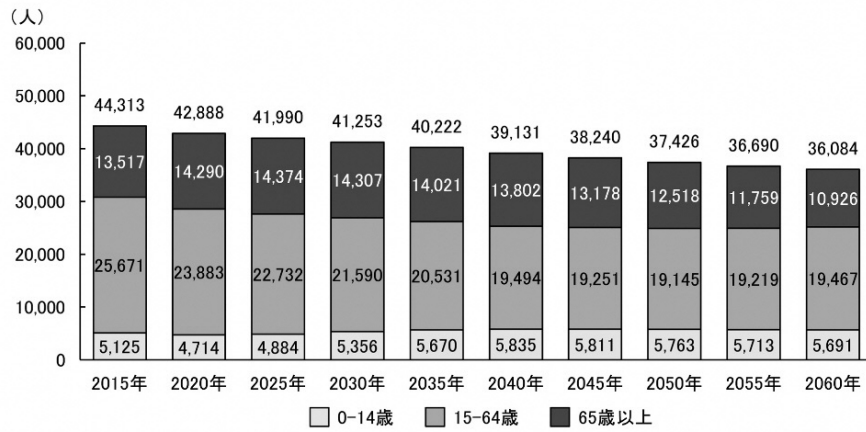


図 加西市人口ビジョンにおける年齢構成別将来人口推計の結果

出典：第2期加西市地域創生戦略

⑦外国人人口、世帯数

・平成26年以降一貫して増加傾向（令和元年：1,340人、1,125世帯）

外国人の推移は、平成11年から増減を繰り返しましたが、平成26年以降、一貫して増加傾向にあり、平成11年から令和元年では、1,340人（78%増）、1,125世帯（116%増）となっております。

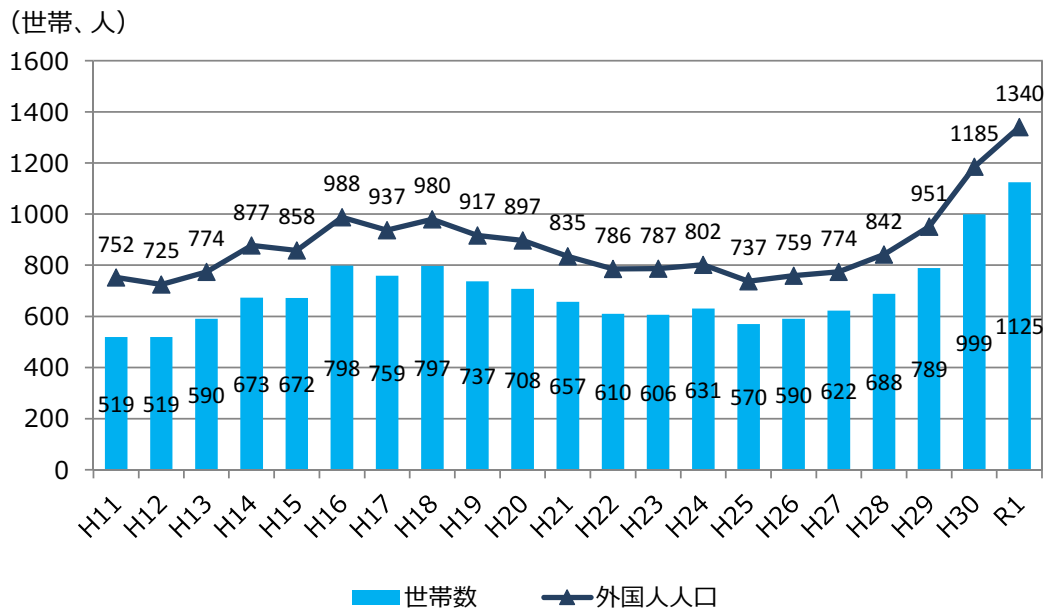


図 外国人人口、世帯数の推移

資料：加西市統計書

2) 産業

①産業構成

- ・本市の就業状況は、第1次産業の就業者は減少傾向にあるが、全就業者に占める割合は兵庫県平均よりも高い
- ・減少傾向にあった第2次産業の就業者数割合が平成27年に増加し、兵庫県平均を20%近く上回っている
- ・製造業、卸小売業が半数を占めている

国勢調査によって産業別の就業者数の推移を見ると、総人口の減少に連動するように、総就業者数は減少し続けており、平成7年の26,086人から平成27年には5千人近く減少して21,113人となっています。

産業別の傾向として、第1次産業と第2次産業は減少傾向、第3次産業の就業者数はほぼ横ばいで推移しており、総就業者数の減少に伴い、結果として第3次産業就業者の比率が高まる傾向を見せています。

平成27年の結果を見ると、第1次産業の就業者比率は全体の3.8%（兵庫県平均値は2.0%）、第1次産業の就業者比率は42.3%（兵庫県平均は25.0%）、第3次産業の就業者比率は52.5%（兵庫県平均は69.0%）であり、本市では第2次産業への就業比率の高さが際立っており、相対的に第3次産業の比率が低い結果となっています。

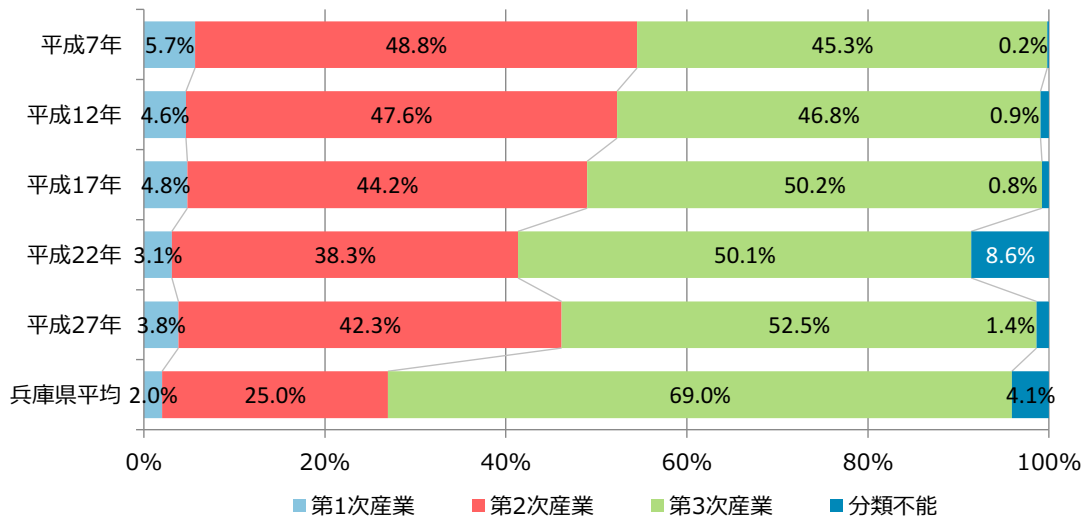


図 産業別就業者数の推移

資料：国勢調査

なお、平成22年国勢調査の結果で、「分類不能」の比率が他の調査年と較べて異常に高い値を示していますが、これは全国的な傾向（全国平均値＝5.8%、兵庫県平均値＝5.8%）であり、この調査年における特殊事情によるものと考えられます。

表 産業別就業者数の推移

上段：人、下段：構成比率 (%)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第1次産業	1,481	1,173	1,149	702	809
	5.7	4.6	4.8	3.1	3.8
第2次産業	12,734	12,041	10,558	8,693	8,935
	48.8	47.6	44.2	38.3	42.3
第3次産業	11,826	11,829	12,004	11,379	11,082
	45.3	46.8	50.2	50.1	52.5
分類不能	45	237	187	1,947	287
	0.2	0.9	0.8	8.6	1.4
合計	26,086	25,280	23,898	22,721	21,113
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：国勢調査

平成 28 年経済センサス活動調査によって、本市内に立地する事業所の内容を産業分類別に見てみると、事業所数では製造業（全体の 27.6%）と卸売業、小売業（23.6%）が多くを占めており、以下、建設業、宿泊業、飲食サービス業などが続いています。

一方、従業者数では、製造業の比率が全体の 46.4%と半数近くを占め、以下、卸売業、小売業（15.6%）、医療、福祉（9.1%）、運輸業、郵便業（7.4%）などが上位を占めています。

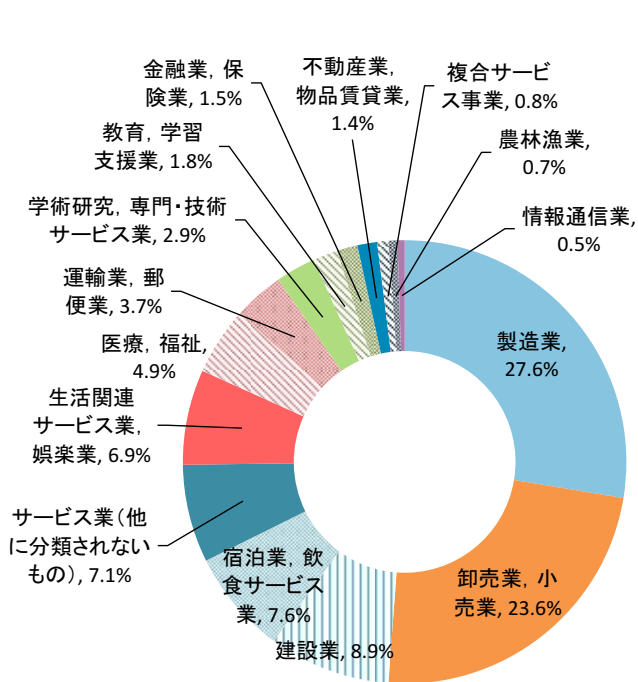


図 産業分類別事業所数

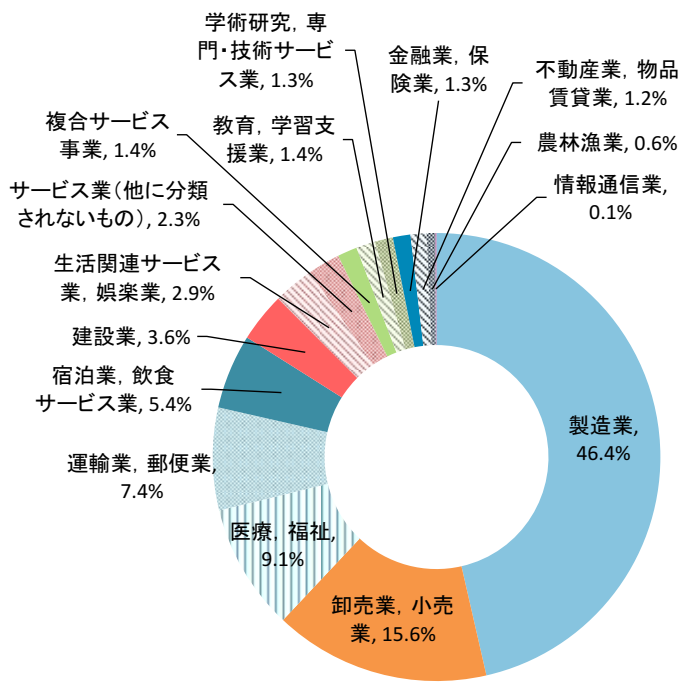


図 産業分類別従業者数

資料：平成 28 年経済センサス活動調査

②農業

- ・農家総数は減少傾向、うち専業農家は増加傾向
- ・耕地面積は平成22年まで減少、平成27年に増加
- ・主要農産物は米であり、次いで、肉用牛、乳用牛

2015年農林業センサスの結果によれば、本市の農家数は2,236戸、経営耕地面積は2,977haとなっており、近年減少傾向を示しています。(いずれも販売農家に限る)

農家のうち、専業農家数はほぼ横ばいか若干の増加傾向を示しているのに対し、兼業農家数はかなり急速に減少しています。全体として農家数が減少する中で、農業に専業で取り組む農家はむしろ増加傾向にあることが注目されます。

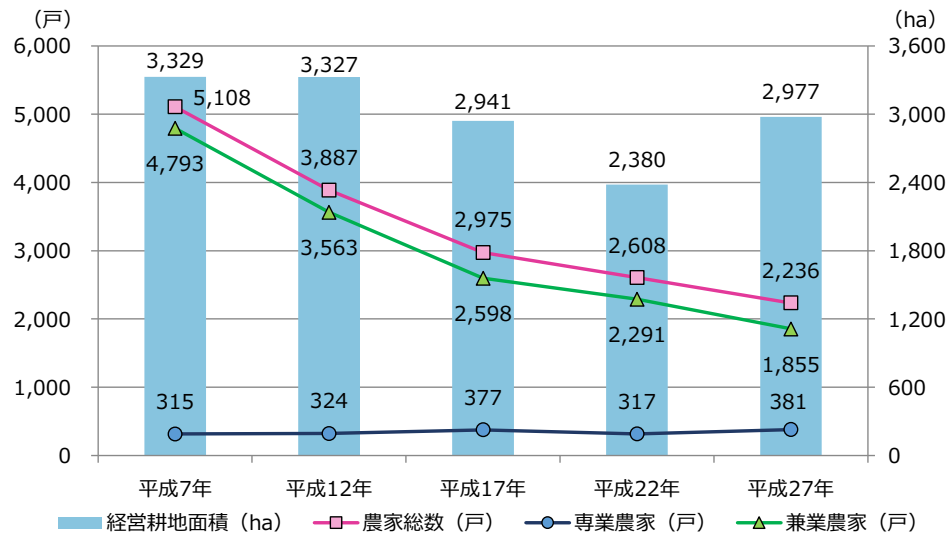


図 農家数、経営耕地面積の推移

資料：市区町別主要統計指標（兵庫県企画県民部ビジョン局統計課）

市町村別農業産出額（推計）・農林水産省によって、本市の農業産出額の推移を見ると、概ね順調に少しずつ増加する傾向を示しています。特に耕種（畜産物以外のすべての農産物）の産出額は増加しています。

畜産物の産出額は、平成30年までは微増傾向にありましたが、令和元年に大きく増加しました。

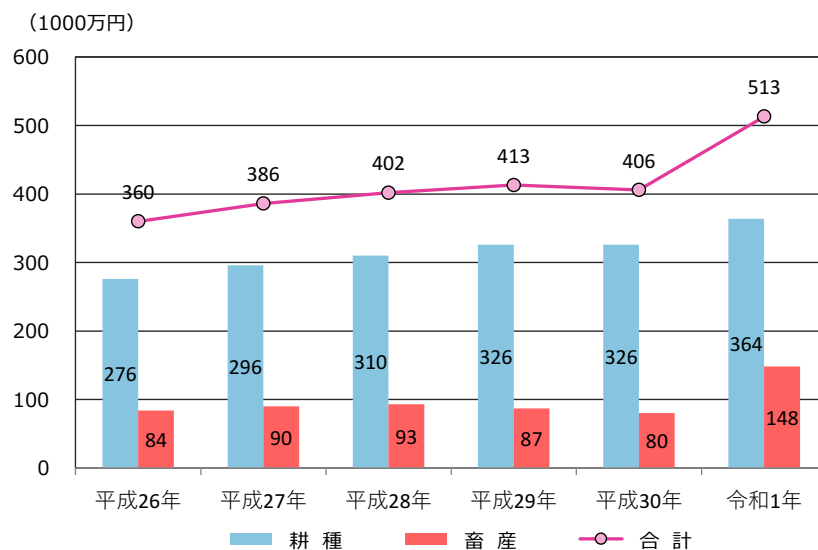


図 農業産出額の推移

資料：市町村別農業産出額（推計）／農林水産省

※耕種とは、田畑等の土地を使って作物を作ること、及びその産物を指す。

農産物のうち、畜産物以外のすべての農作物が含まれる。

令和元年度における本市の農業産出額の合計は、51億3千万円で、兵庫県の市町の中で10位の地位を占めています。本市農業の中心は、水田による米の生産（水稻）であり、全農業産出額の約54%を占めています。その他には、耕種では主に野菜、果実、豆類などが生産されています。

また、畜産物の生産も盛んで、肉用牛と乳用牛の合計で全農産物産出額の3割近くを占めています。

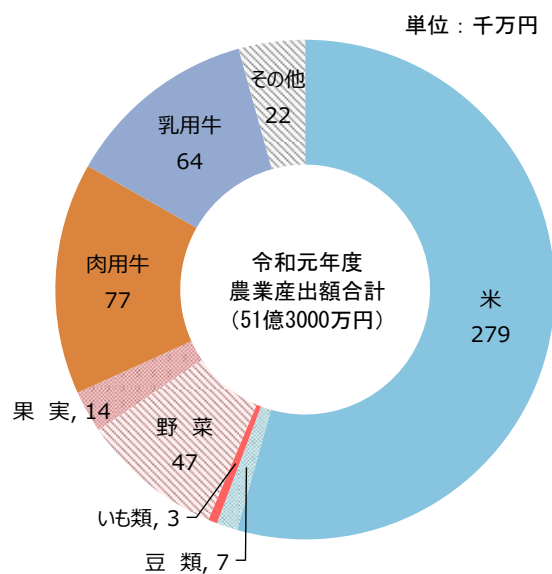


図 主要農産物の割合

資料：2019年生産農業所得統計（農林水産省）

表 兵庫県内の農業産出額上位都市

順位	市町名	農業産出額 (1,000万円)
1	南あわじ市	2,135
2	神戸市	1,285
3	豊岡市	1,163
4	丹波市	1,157
5	姫路市	594
6	三木市	590
7	洲本市	568
8	上郡町	562
9	淡路市	539
10	加西市	513
11	篠山市	510

(注) 農業産出額が50億円以上の市町を表示（2019年）

資料：2019年生産農業所得統計（農林水産省）

③商業

- ・年間商品販売額は平成19年まで減少した後に増加傾向
- ・従業員数は平成24年を底値にその後増加、店舗数は平成24年から概ね370店舗で推移
- ・面積当たりの販売額は概ね60~70万円/m²程度で推移

卸売業と小売業を合計した商業全体の推移は、平成19年までは商店数、従業者数、年間商品販売額ともおおむね減少傾向を示していましたが、最近の10年間ほどは横ばいないしは増加傾向に転じています。平成28年現在、商店数は370、従業者数は2,614人、年間商品販売額は約732億円で、販売額の規模では近隣市の西脇市（約781億円）、加東市（約739億円）とほぼ肩を並べています。

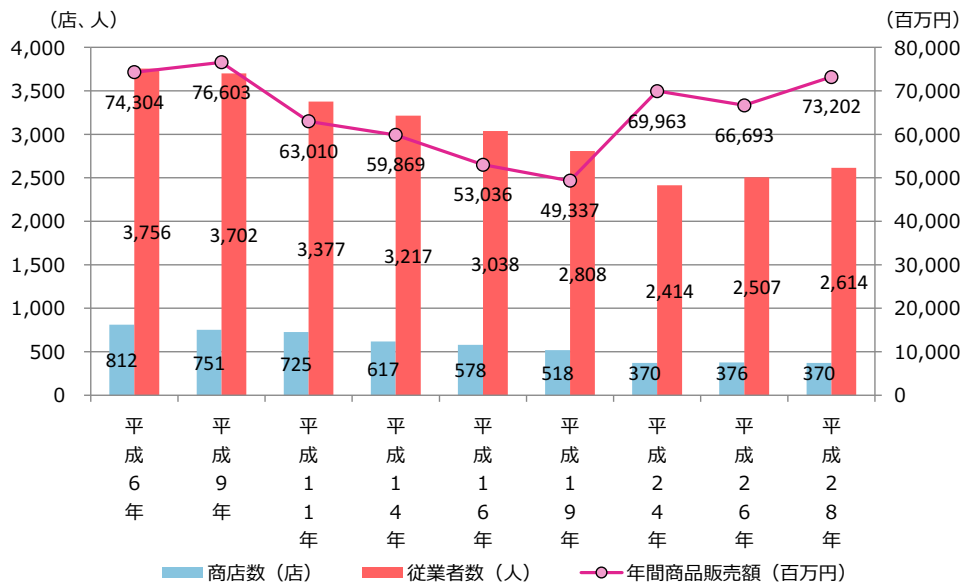


図 事業所・従業者数、年間商品販売額の推移（卸売業と小売業の合計）

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査

表 近隣都市の事業所・従業者数、年間商品販売額（卸売業と小売業の合計・平成28年）

	事業所数	従業者数 (人)	年間商品 販売額 (百万円)
201 姫路市	5,044	40,830	1,682,358
210 加古川市	1,589	15,023	526,268
213 西脇市	478	2,815	78,112
218 小野市	401	2,717	65,181
220 加西市	370	2,614	73,202
228 加東市	368	2,488	73,905

資料：平成28年経済センサス活動調査

小売業の推移を見ると、平成6年以降減少傾向にあった年間商品販売額は、平成16年の約357億円を底にして増加に転じ、平成28年には約444億円にまで回復しています。ただし、売場面積も平成19年以降、増加傾向にあるため、販売効率（売場面積当たりの年間商品販売額）が上昇した訳ではなく、60～70万円/㎡程度で推移している状況です。

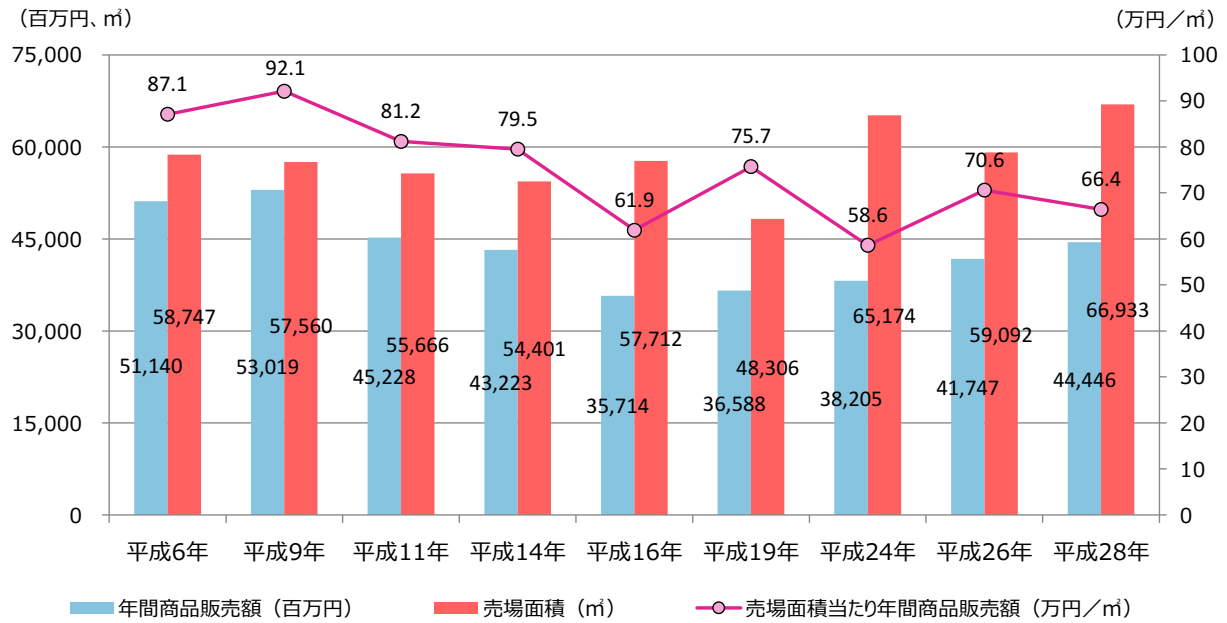


図 小売業年間商品販売額、小売業販売面積、面積当たりの販売額の推移

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査

④工業

- ・ 製造品出荷額と従業者数は平成 27 年に減少したが、一貫して増加傾向
- ・ 事業所数は、平成 28 年から概ね 240 事業所で推移
- ・ 産業分類別では電気機械器具製造業が最も多い

最近 10 年間の本市の工業生産の状況（従業者 4 人以上の事業所）は、おおむね順調に推移しており、事業所数は減少傾向からほぼ横ばいになり、従業者数と製造品出荷額等はほぼ増加傾向が続いています。令和元年現在、市内 242 事業所、10,005 人の従業者、製造品出荷額等は 3,214 億円に達しています。

産業中分類別に製造品出荷額等を見ると、電気機械器具製造業が 985 億円で首位を占めており、以下、はん用機械器具製造業、鉄鋼業、金属製品製造業、プラスチック製品製造業の順で上位を占めています。

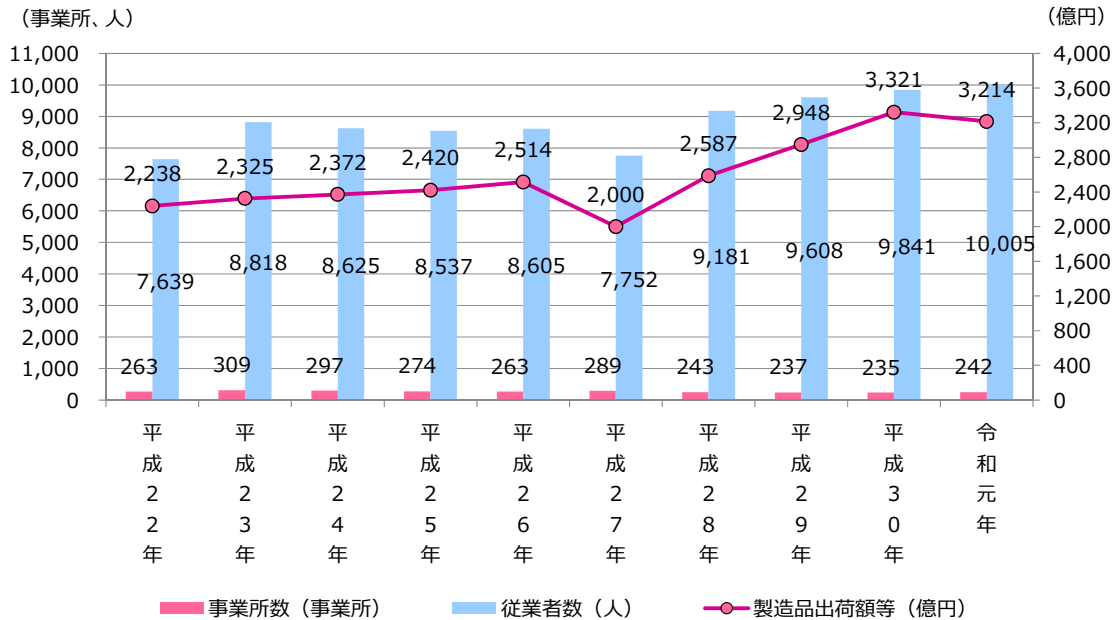


図 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

資料：工業統計調査、経済センサス活動調査

表 加西市の産業分類別主要製造業

産業分類名	事業所数 事業所	従業者数 人	製造品出荷額等 万円
09 食料品製造業	7	555	1,324,734
12 木材・木製品製造業 (家具を除く)	4	244	888,629
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	10	238	728,516
18 プラスチック製品製造業 (別掲を除く)	22	915	2,532,060
21 窯業・土石製品製造業	7	193	556,836
22 鉄鋼業	10	804	4,331,096
24 金属製品製造業	59	1,503	4,319,727
25 はん用機械器具製造業	26	1,492	4,513,674
26 生産用機械器具製造業	34	535	588,264
27 業務用機械器具製造業	4	295	648,695
29 電気機械器具製造業	10	2,166	9,852,098
31 輸送用機械器具製造業	18	493	783,485

資料：平成 28 年経済センサス活動調査

(4) 環境条件

1) 安全

- ・ 1995年の阪神・淡路大震災では震度4、負傷者1名、建物被害（一部損壊237棟）
- ・ 火災の発生状況は、概ね10～20件/年発生し、1,000㎡/年程度が消失
- ・ 市内での交通事故の発生は、件数、死傷者数とも減少傾向

①地震災害の履歴

これまでに、兵庫県内が震央となった、震度5以上と推定される地震は下表のとおりです。多くの市民が実体験した1995年の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）では、本市でも震度4を記録し、負傷者1名と建物被害（一部損壊237棟）が発生しました（消防庁確定報告）。

表 地震災害の履歴

番号	発生年月日	規模 (マグニチュード)	震 央
○ 1	868. 8. 3	7.1	姫路、加古川、高砂市接合地点付近
○ 2	1864. 3. 6	6.4	加古川上流杉原付近
○ 3	1916. 11. 26	6.3	明石海峡付近
○ 4	1925. 5. 23	7.0	豊岡付近
5	1949. 1. 20	6.5	香住町付近
6	1961. 5. 7	5.9	佐用郡佐用町
7	1984. 5. 30	5.6	姫路市安富町南部
◎ 8	1995. 1. 17	7.3	淡路島北端部海峡
○ 9	2013. 4. 13	6.3	淡路島付近

○は震度6以上の推定、◎は震度7（震度階級は旧階級による）

資料：加西市地域防災計画（地震対策編）

②火災発生の変遷

本市内での火災の発生状況は、件数、焼失面積とも年によってばらついていますが、建物火災、山林・その他火災のそれぞれで、概ね10～20件/年発生し、1,000㎡/年程度が消失しています。建物火災よりも、山林・その他火災の方が多い（件数、消失面積とも）という傾向が見られます。

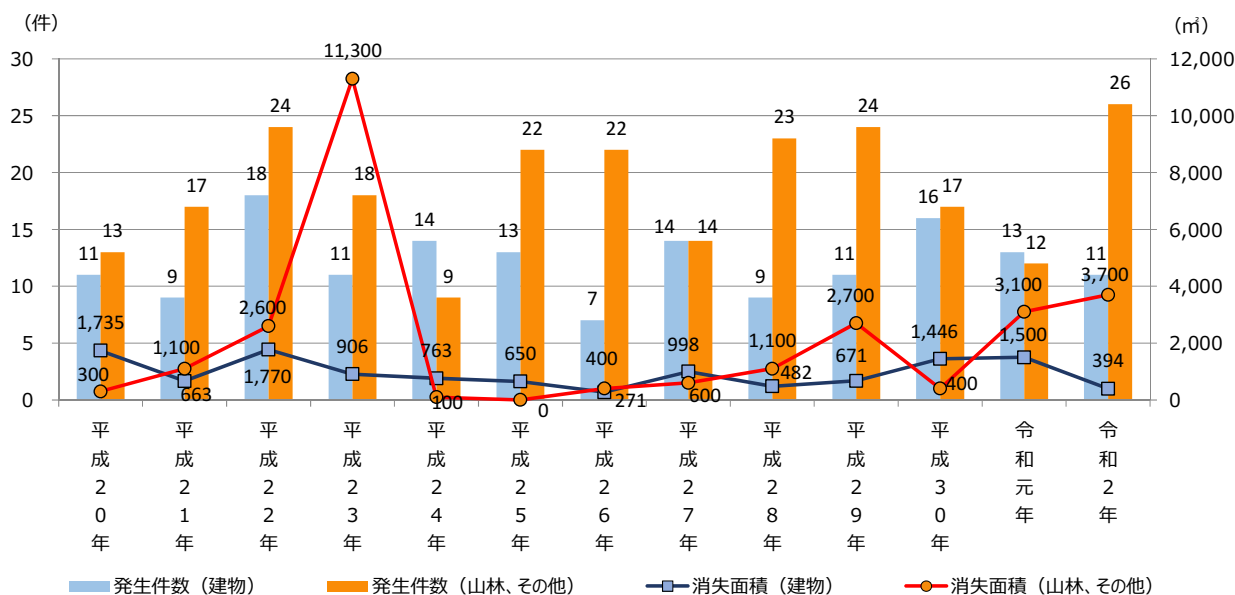
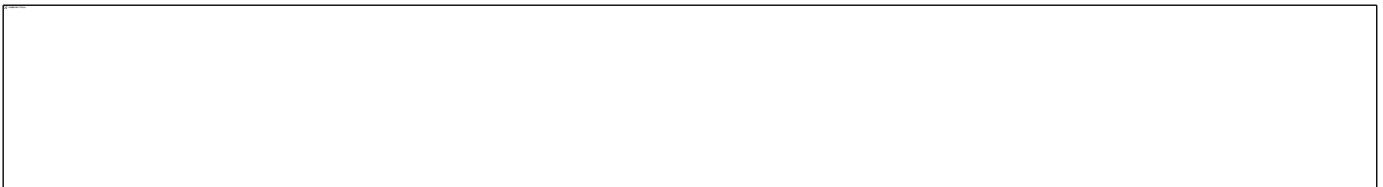


図 火災発生の変遷

資料：加西市統計書

表 火災発生の推移



資料：加西市統計書

③交通事故の推移

市内での交通事故の発生は、件数、死傷者数とも減少傾向を示しており、特に死傷者数は過去 10 年間でほぼ半減しました。それでも令和 1 年の 1 年間で、約 1,300 件の交通事故が発生し、1 人の死亡者と 189 人の負傷者が出ています。

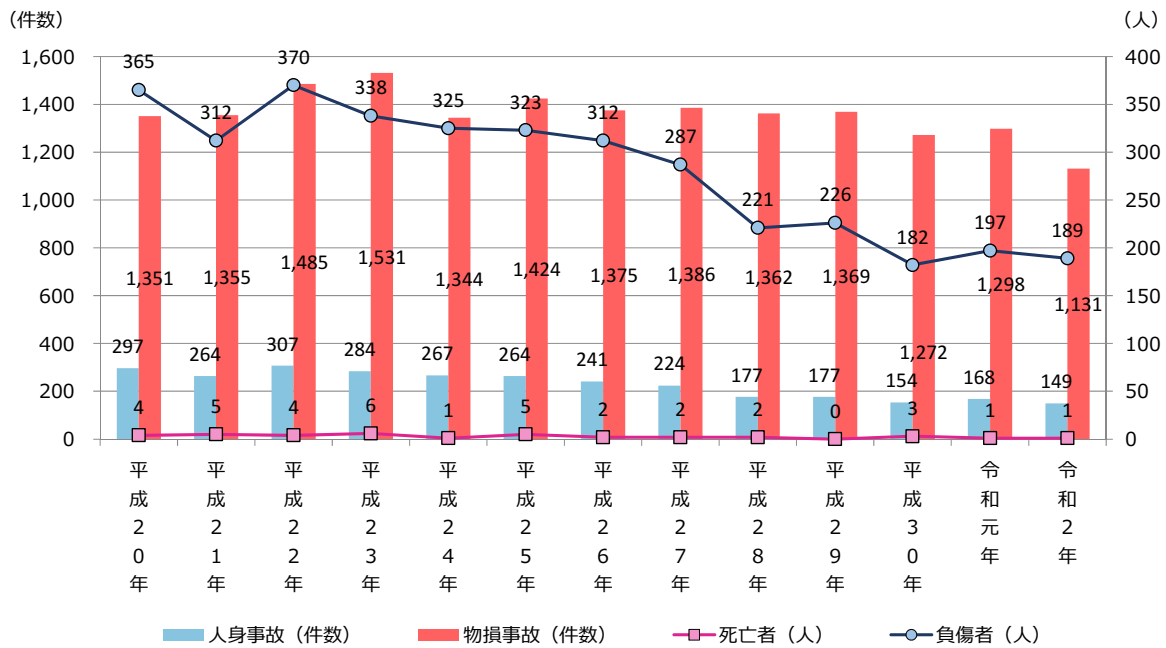


図 交通事故の推移

資料：加西市統計書

表 交通事故の推移

		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
発生件数	人身事故	297	264	307	284	267	264	241	224	177	177	154	168	149
	物損事故	1,351	1,355	1,485	1,531	1,344	1,424	1,375	1,386	1,362	1,369	1,272	1,298	1,131
	合計	1,648	1,619	1,792	1,815	1,611	1,688	1,616	1,610	1,539	1,546	1,426	1,466	1,280
死傷者数 (人)	死亡者	4	5	4	6	1	5	2	2	2	0	3	1	1
	負傷者	365	312	370	338	325	323	312	287	221	226	182	197	189
	死傷者計	369	317	374	344	326	328	314	289	223	226	185	198	190

資料：加西市統計書

2) 災害

①土砂災害

・山の斜面地や斜面地沿いの幹線道路、北条の市街化区域内の一部、日吉校区や西在田校区の都市計画区域外に分布

市内の土砂災害警戒区域は、山の斜面地や斜面地沿いの幹線道路（特に大和北条停車場線及び下滝野市川線の北側や中寺北条線）をまたぐように分布しています。一部、北条の市街化区域内にも分布しています。

また、土砂災害特別警戒区域は、市域を囲むよう外側に分布していますが、特に日吉校区や西在田校区の都市計画区域外に分布しています。

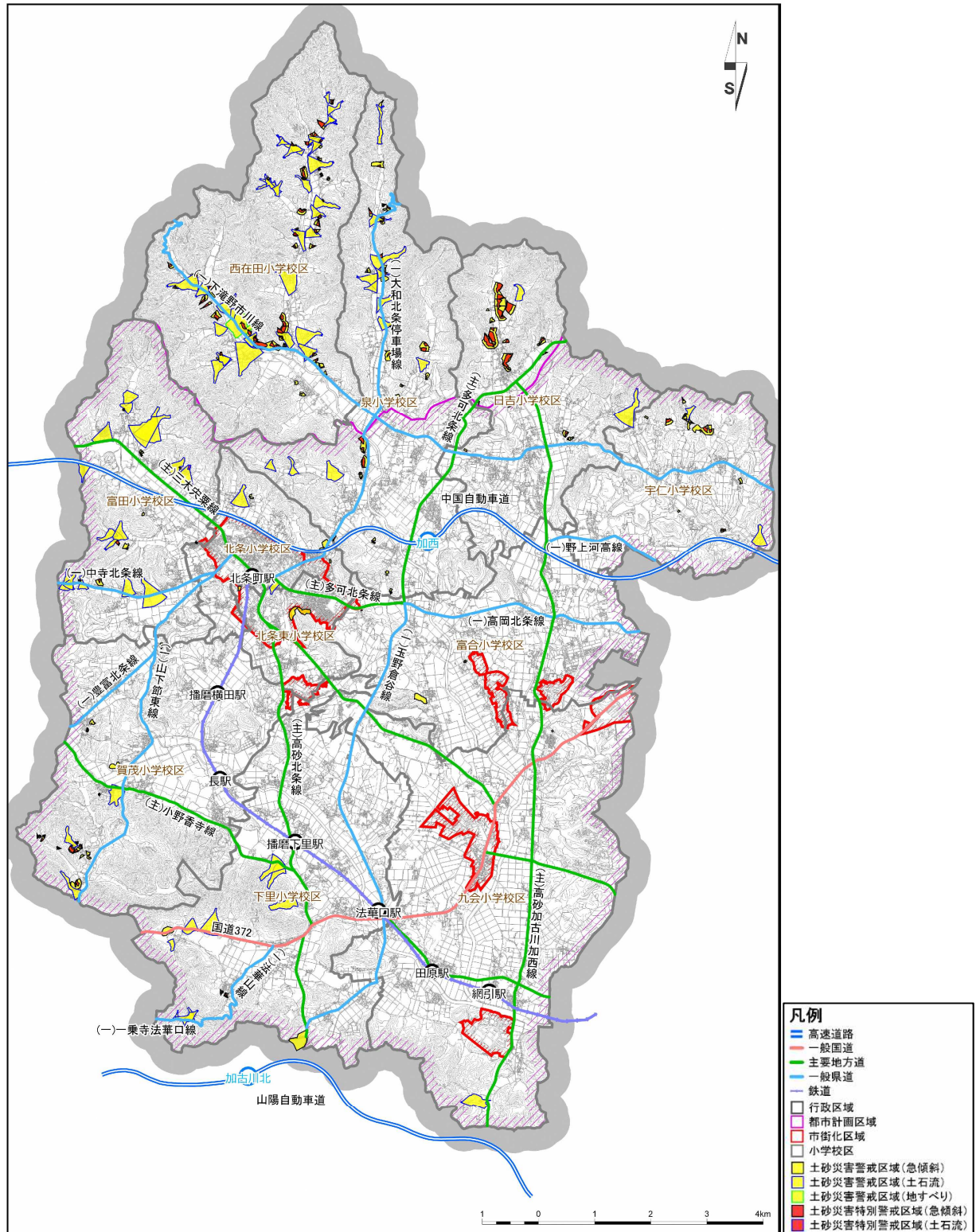


図 土砂災害（特別）警戒区域

資料：加西市

②洪水

- ・富田校区の三木穴栗線沿い、九会校区の網引駅から万願寺川の合流地点にかけてまとまりをもった洪水浸水想定区域が指定
- ・特に網引駅周辺は3m～5mの浸水、中野の市街化区域内の一部に浸水が想定

本市には万願寺川や下里川、普光寺川を起因とする洪水浸水想定区域が指定され、富田校区の三木穴栗線沿いや九会校区の網引駅から万願寺川の合流地点にかけてある程度のまとまりをもった洪水浸水想定区域が指定されています。特に網引駅周辺は3m～5mの浸水が想定され、一部、中野の市街化区域内にも浸水が想定されている区域があります。

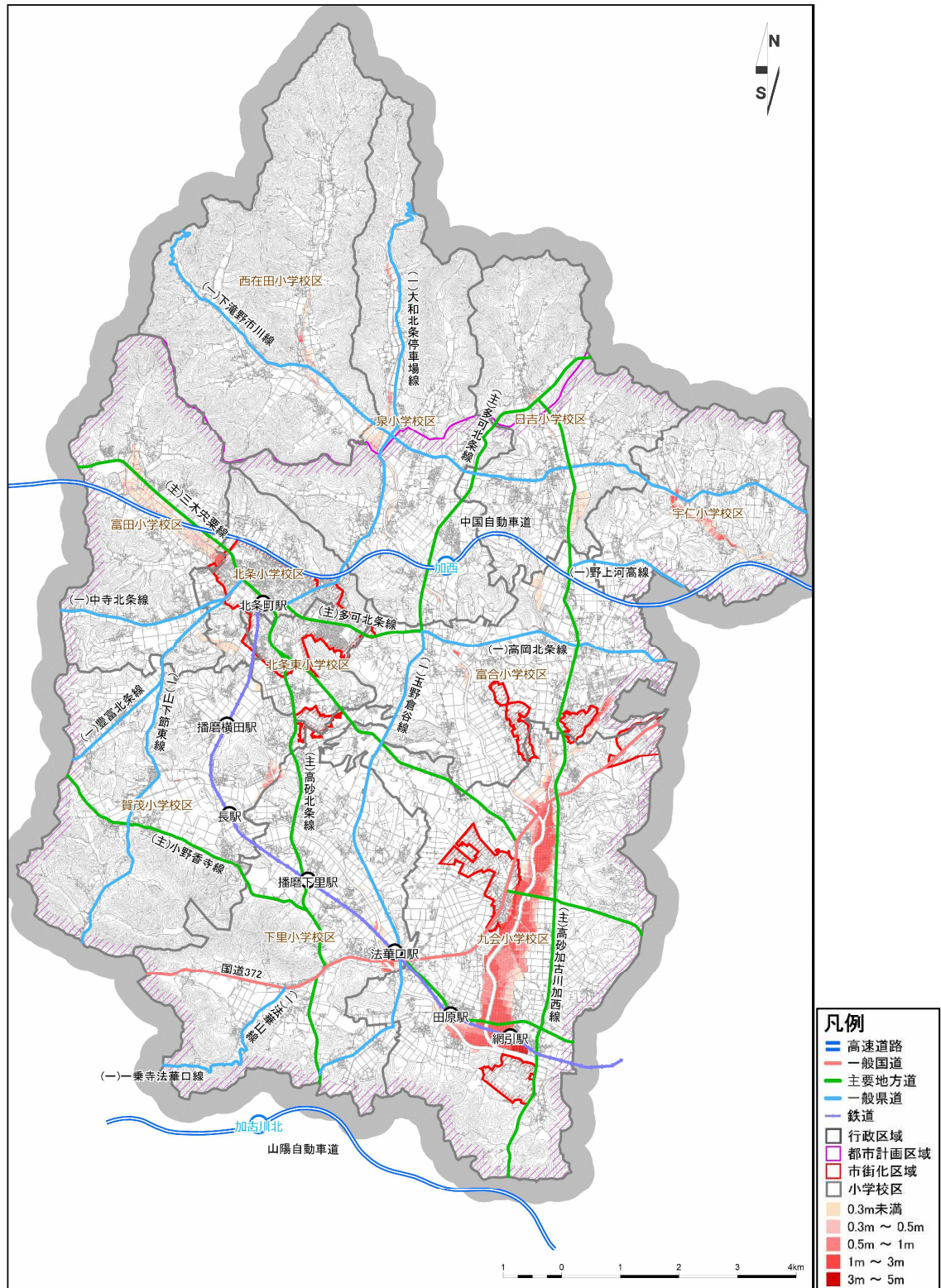


図 洪水浸水想定区域（計画規模）

資料：加西市

3) 保健

- ・公害苦情件数は平成20年までは減少し、その後は増加に転じ、平成27年現在、42件/年
- ・ごみの年間収集量は、平成20年度以降、横ばいか若干の減少傾向が継続したが、平成29年度以降はわずかに増加傾向

①公害苦情件数の履歴

本市で受け付けた公害苦情件数は、平成20年までは減少していましたが、その後は増加に転じ、平成27年現在、42件/年に達しています。その内訳は、「水質の汚染」が約43%を占めて最も多く、次いで「騒音」、「悪臭」の順となっています。過去の実績でも、「水質の汚染」、「騒音」、「悪臭」が公害苦情の大半を占めており、「土壌汚染」や「地盤の沈下」などの公害苦情はほとんどありません。

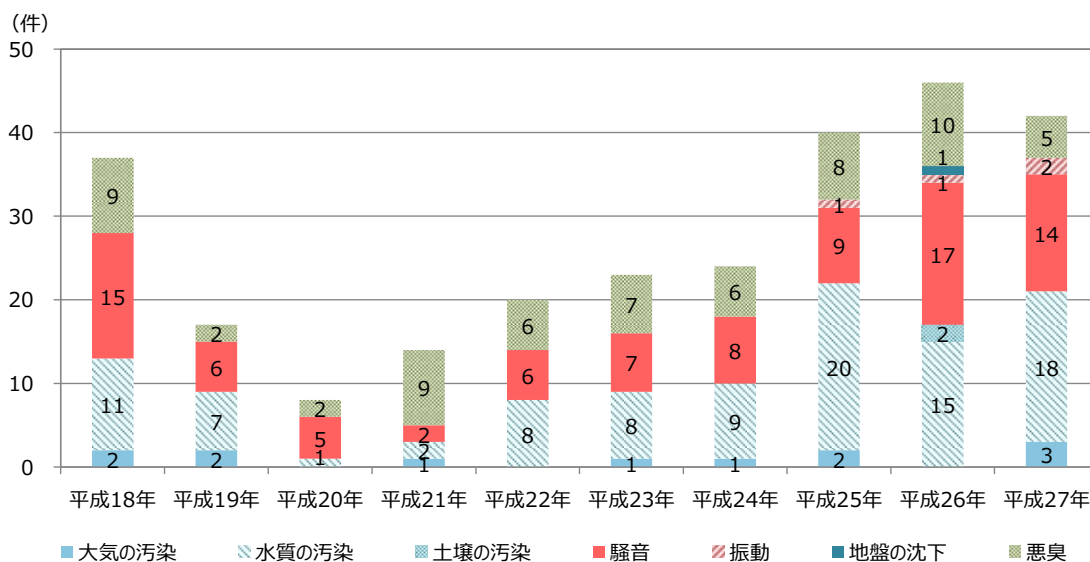


図 公害苦情件数の推移

資料：第2次加西市環境基本計画

表 公害苦情件数の推移

分類	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
大気汚染	2	2	0	1	0	1	1	2	0	3
水質汚染	11	7	1	2	8	8	9	20	15	18
土壌汚染	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
騒音	15	6	5	2	6	7	8	9	17	14
振動	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
地盤の沈下	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
悪臭	9	2	2	9	6	7	6	8	10	5

資料：第2次加西市環境基本計画

②ごみ収集量、し尿収集量の履歴

ごみの年間収集量は、平成20年度以降、年間12,000t前後で横ばいか若干の減少傾向が続いていましたが、平成29年度以降はわずかに増加傾向を示しています。令和元年度の年間収集量は11,513tです。

公共下水道及び合併浄化槽の普及に伴い、し尿の年間収集量は減少し続けており、令和元年度の年間収集量は平成19年度の1/3以下となる2,979klにまで減少しています。

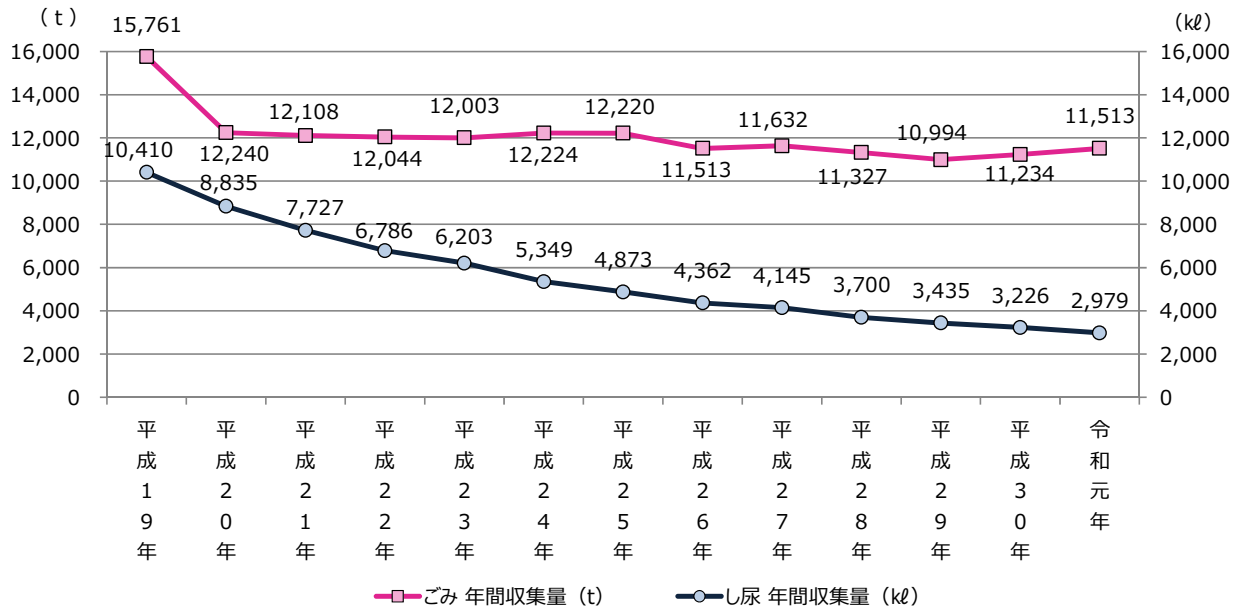


図 ごみ収集量、し尿収集量の推移

資料：加西市統計書

表 ごみ収集量、し尿収集量の推移

		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
し尿	収集車数	4	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	従業者数	16	11	8	6	4	5	6	6	6	4	3	3	3
	施設の1日処理能力 (kl)	57	57	57	57	57	57	57	57	57	45	45	45	45
	年間収集量 (kl)	10,410	8,835	7,727	6,786	6,203	5,349	4,873	4,362	4,145	3,700	3,435	3,226	2,979
ごみ	収集車数	4	4	4	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3
	従業者数	16	17	15	12	9	10	9	9	4	4	4	3	3
	年間収集量 (t)	15,761	12,240	12,108	12,044	12,003	12,224	12,220	11,513	11,632	11,327	10,994	11,234	11,513

資料：加西市統計書

4) 利便

①通勤流動

- ・市内への就業者数が市外への就業者数を大きく上回る
- ・通勤先としては、主に加東市、姫路市、小野市

平成27年国勢調査によって、加西市の就業者（15歳以上）の通勤状況を見ると、市外から本市に働きに来る流入就業者数が11,077人あり、市外に働きに出る流出就業者数7,714人を大きく上回っています。

流入元の市町としては姫路市からの流入が最も多く、次いで加古川市、加東市、小野市などの隣接市からの流入が多くなっています。

一方、本市からの流出先としては、加東市、姫路市、小野市など、隣接市との結びつきが強いのですが、神戸市への流出も一定数見られます。

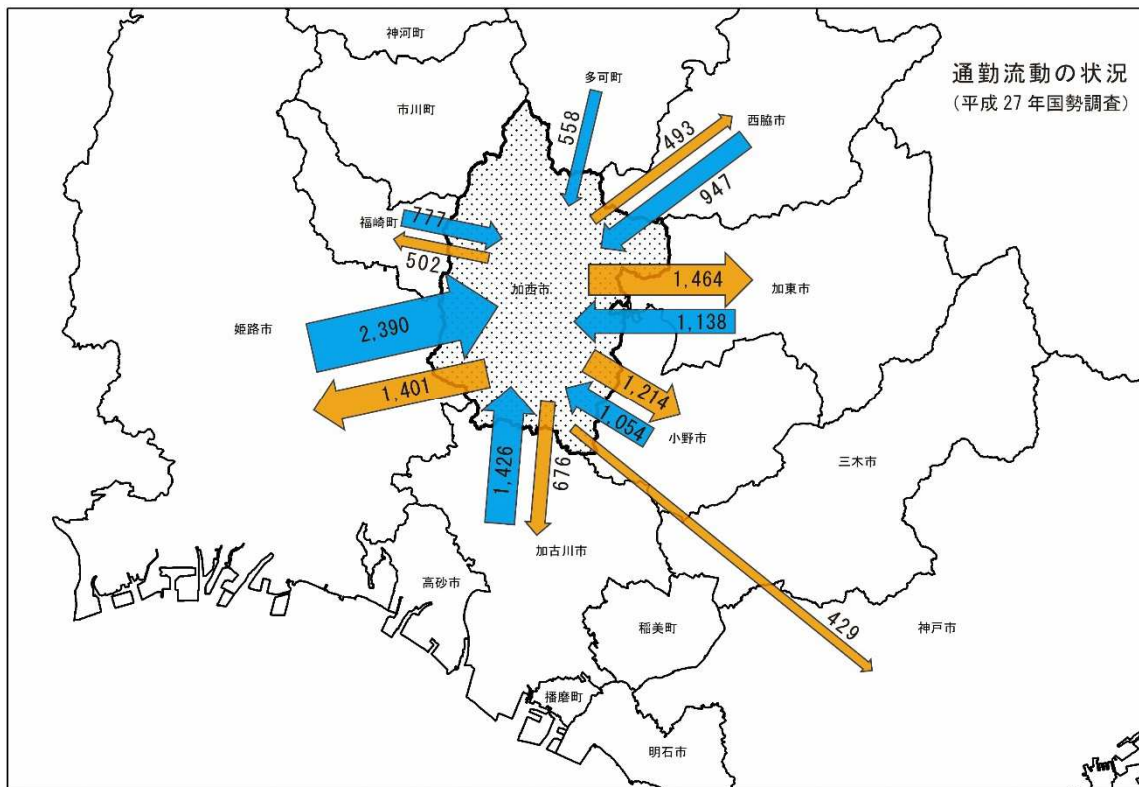


図 15歳以上就業者における通勤者の主な流入元・流出先

資料：平成27年国勢調査

表 15歳以上就業者における通勤者の主な流入元・流出先

市町名	流出就業者 (人)	流入就業者 (人)	流出入差 (人)
姫路市	1,401	2,390	989
加東市	1,464	1,138	-326
小野市	1,214	1,054	-160
加古川市	676	1,426	750
西脇市	493	947	454
福崎町	502	777	275
神戸市	429	390	-39
多可町	175	558	383
高砂市	219	403	184
三木市	298	294	-4

(注) 対加西市流出就業者と流入就業者の合計が多い上位10市町を表記

資料：平成27年国勢調査

②通学流動

- ・市内への通学者数は市外への通学者数を下回る
- ・通学先としては、主に小野市、神戸市、姫路市、西脇市

通勤と同様に、加西市の通学者（15歳以上）の通学状況を見ると、通勤の就業者の動きとは逆に市外への流出量が市内への流入量を大きく上回っており、流入量の5倍以上に達しています。

主な流出先は、小野市、神戸市、姫路市、西脇市の4市ですが、本市とは距離のある西宮市などにも一定数が通学しています。

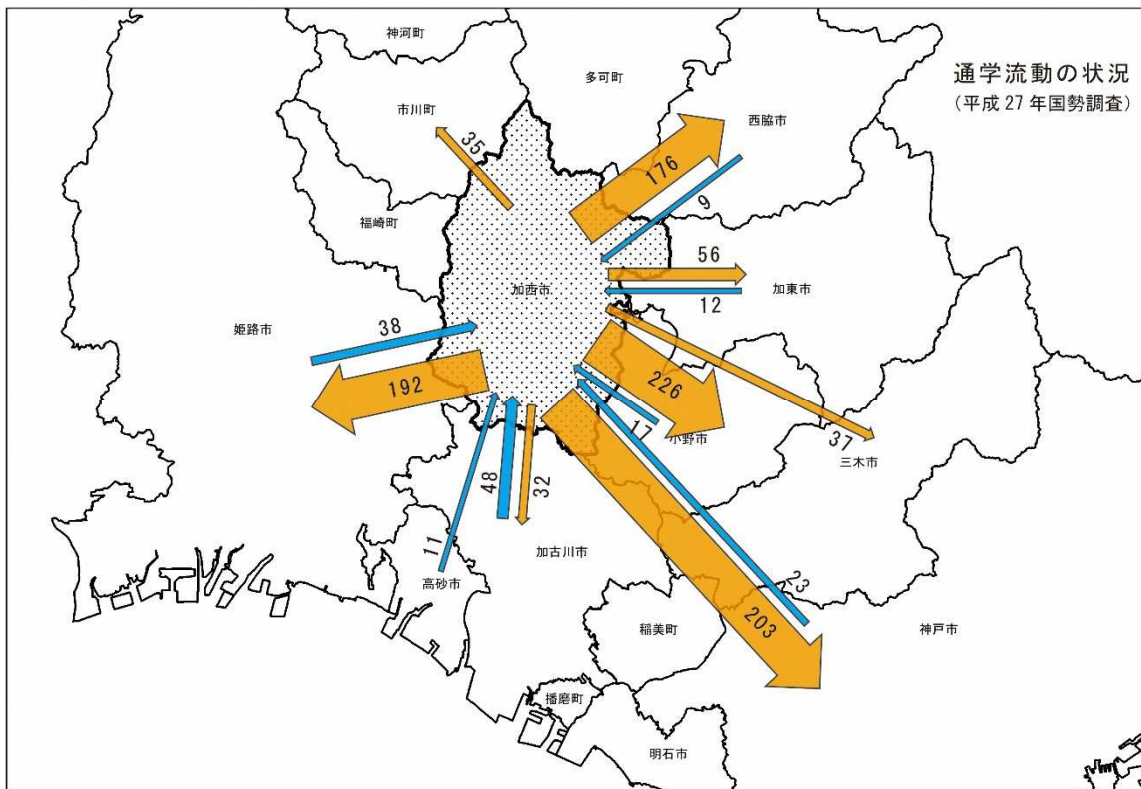


図 15歳以上通学者における通学者の主な流入元・流出先

資料：平成27年国勢調査

表 15歳以上通学者における通学者の主な流入元・流出先

市町名	流出通学者 (人)	流入通学者 (人)	流出入差 (人)
小野市	226	17	-209
姫路市	192	38	-154
神戸市	203	23	-180
西脇市	176	9	-167
加古川市	32	48	16
加東市	56	12	-44
三木市	37	3	-34
市川町	35	1	-34
西宮市	28	0	-28

(注) 対加西市流出通学者と流入通学者の合計が多い上位10市町を表記

資料：平成27年国勢調査

③鉄道

・年間利用客数は概ね 30 万人から 35 万人程度で推移（令和元年度 333,787 人）

北条鉄道の年間利用者数は、若干の増減を繰り返しながら、概ね 30 万人から 35 万人程度で推移しており、令和元年度の総利用者数は 333,787 人でした。このうち約 56%を定期客が占めており、特に通学定期客が通勤定期客を大きく上回っています。

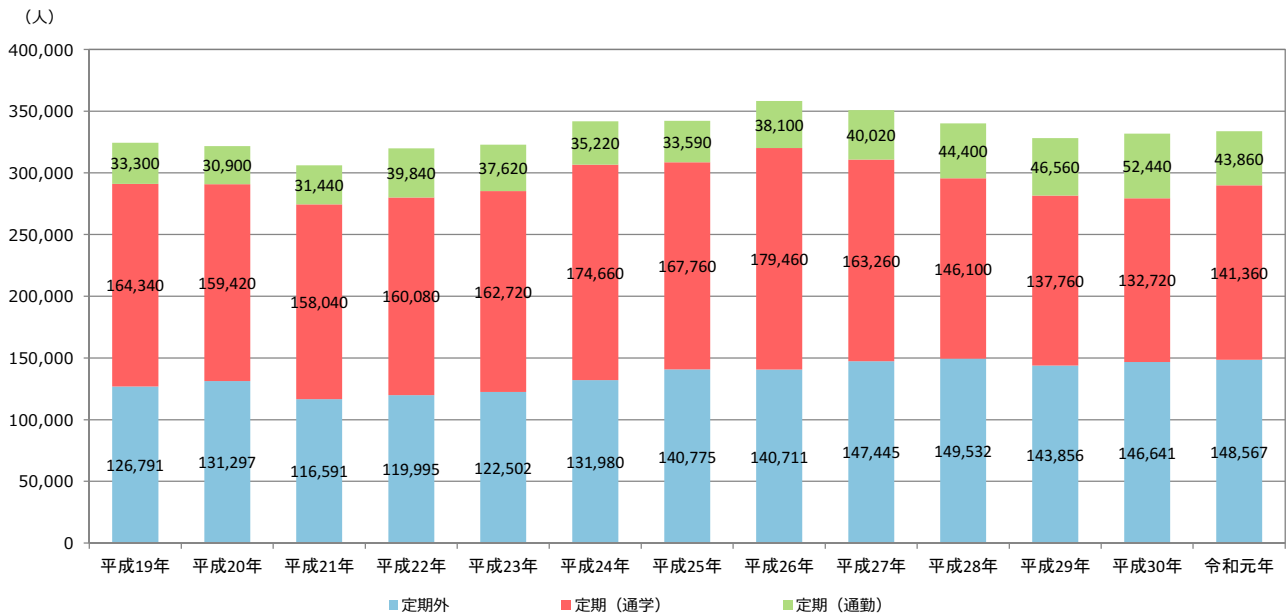


図 鉄道利用者の推移

資料：加西市統計書

④バス

・バス利用者数は令和元年まで継続して増加傾向（令和2年度の減少はコロナウイルスによる影響と想定）

バスは、高速バス、路線バス、コミュニティバス及び住民バスが運行されています。

高速バスは、中国自動車道北条バス停・泉バス停で利用でき、路線バスは、姫路市や加古川市、高砂市、加東市と結ばれています。

コミュニティバスは「KASAI ねっぴ〜号」として、九会校区、西在田校区と市街地を結ぶ路線と、市街地を循環する路線を運行しています。住民バスは、平成23年2月より市北部地域において、加西市公共交通活性化協議会が運営し、民営路線のバス停や鉄道駅が近くにない地域を走行する「はっぴーバス」を運行しています。

また、バス利用者の推移をみると、令和元年まで継続して増加傾向にありましたが、令和2年度に減少したのは、コロナウイルスによる外出頻度の減少が影響していると想定されます。

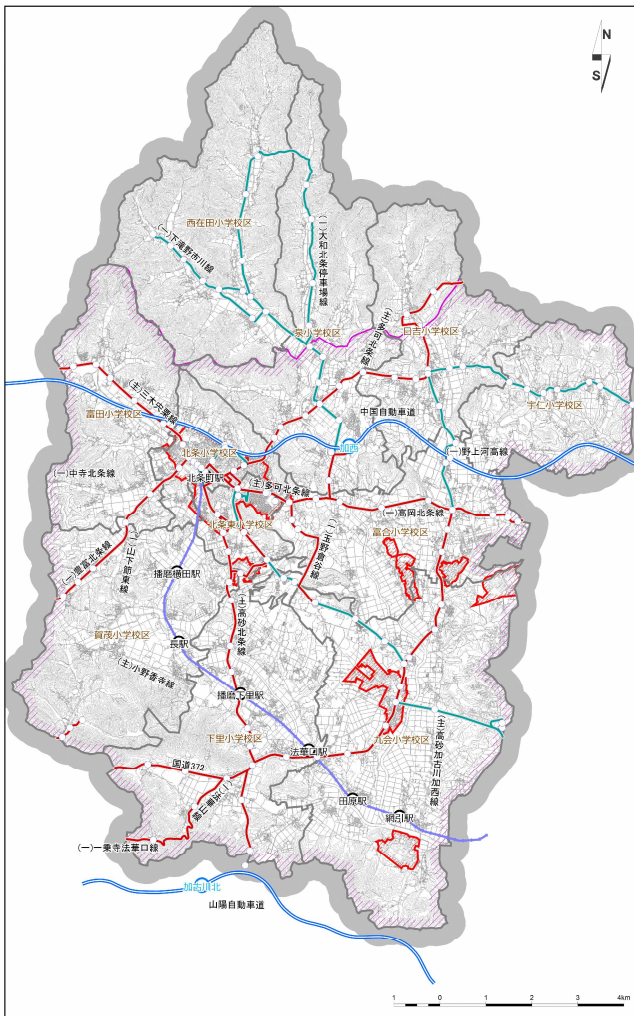


図 バス路線図

資料：国土数値情報

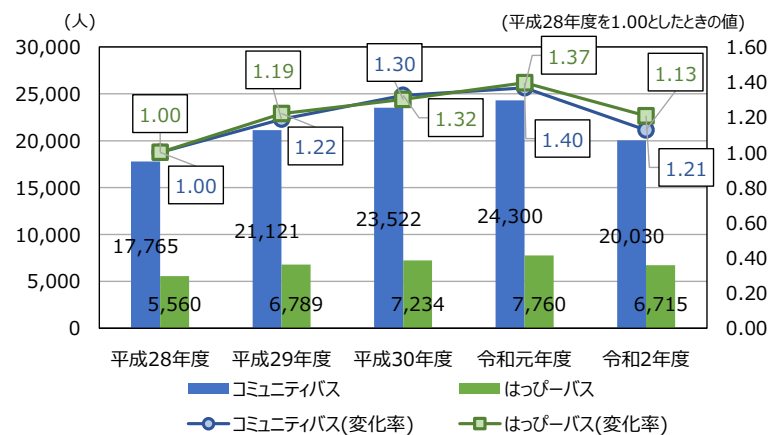


図 バス利用者の推移

資料：加西市

5) 快適

①文化財

・105 件が文化財に指定または登録(国指定 18 件、県指定 28 件、市指定 52 件、国登録 5 件、県登録 2 件)

令和 3 年 3 月時点の文化財の指定等の件数は、合計 105 件を文化財に指定等しています。

指定では、国指定が 18 件、県指定 28 件、市指定が 52 件、登録では、国登録が 5 件、県登録が 2 件となっています。

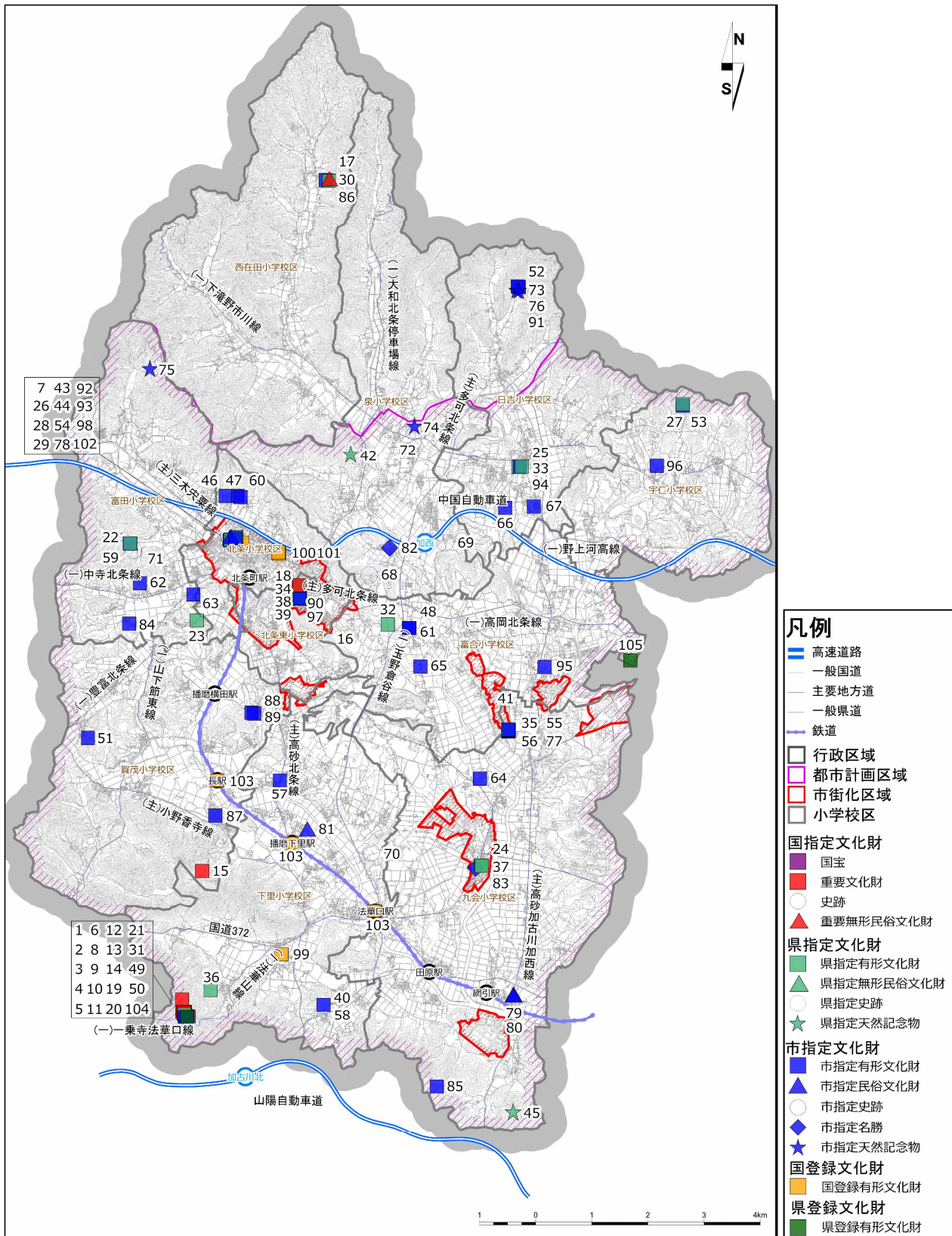


図 指定文化財一覧(令和 3 年 3 月時点)

資料：加西市

表 指定文化財一覧（令和3年3月時点）

ID	大分類	中分類	名称	ID	大分類	中分類	名称					
1	国指定文化財	国宝	一乗寺三重塔（国宝）	54	市指定文化財		酒見寺楼門					
2		重要文化財		一乗寺妙見堂		55		乎疑原神社石造鳥居				
3				一乗寺弁天堂		56		乎疑原神社梵鐘				
4				一乗寺護法堂		57		大村石仏				
5				一乗寺五輪塔		58		倉谷石仏				
6				一乗寺本堂		59		吸谷廃寺礎石並びに出土古瓦				
7				酒見寺多宝塔		60		小谷石仏				
8		国宝	絹本着色聖徳太子及天台高僧像（国宝）	61			薬師堂板碑					
9		重要文化財		絹本着色阿弥陀如来像		62		長圓寺板碑				
10				絹本着色五明王像		63		腰折地蔵				
11				銅造聖観音立像		64		上宮木石仏				
12				木造法道仙人立像（開山堂安置）		65		玉野石仏				
13				木造僧形坐像		66		春岡寺石仏				
14				銅造観音菩薩立像		67		大日寺石仏群				
15			石造浮彫如来及両脇侍像	68		市指定史跡		亀山古墳				
16		史跡	玉丘古墳群	69				経塚古墳				
17		重要無形民俗文化財	東光寺の鬼会	70				野条廃寺跡				
18		重要文化財	太刀 銘国安	71				吸谷瓦窯跡群				
19	県指定文化財	市指定有形文化財	一乗寺石造宝塔	72	市指定文化財		皇塚古墳					
20				一乗寺鐘楼		73		モリアオガエル生息地				
21				一乗寺石造笠塔婆		74	市指定天然記念物	石部神社門杉				
22				石造層塔		75			ゆるぎ岩			
23				石造五重塔		76			ヒメノルゼミ発生地			
24				石造宝篋印塔		77	市指定有形文化財		乎疑原神社石造五尊像			
25				日吉神社明神鳥居		78	市指定民俗文化財		住吉神社鶏合せ			
26				酒見寺鐘楼		79			八幡神社綱引獅子舞			
27				奥山寺多宝塔		80			綱引能舞台			
28				住吉神社		81			王子獅子舞			
29			市指定有形文化財			酒見寺梵鐘	82	市指定名勝		長浜家古庭園		
30						東光寺梵鐘	83			三宅家古庭園		
31						一乗寺三重塔古瓦	84	市指定有形文化財		吉野村歳之当条目		
32						石棺蓋石	85			阿弥陀如来坐像		
33						日吉神社境内出土御正躰群	86			阿弥陀如来坐像		
34						天神山瓦窯跡出土古瓦（1）	87			不動明王立像		
35						天神山瓦窯跡出土古瓦（2）	88			大日如来坐像		
36						播磨法華山坂本磚仏	89			二天立像 右 持国天像 左 多聞天像		
37						清慶寺板碑	90			亀山古墳副葬品埋納施設出土遺物		
38						鎮岩板碑	91			普光寺 瓦質燈籠（がしつとうろう）		
39						江ノ上経塚出土品	92			住吉神社幣殿・粟島神社		
40				県指定史跡			後藤山古墳		93		酒見寺建造物群	
41							山の脇瓦窯跡		94		日吉神社建造物群	
42				県指定天然記念物			殿原のイチヨウ		95		浮彫阿弥陀如来坐像	
43				県指定無形民俗文化財			住吉神社龍王舞		96		八王子神社本殿	
44			県指定史跡			北条の五百羅漢	97		青野原俘虜収容所棟札			
45			県指定天然記念物			綱引温泉	98		楠公訣子図絵馬			
46			県指定有形文化財			木造阿弥陀如来立像	99	国登録文化財	国登録有形文化財	福岡家住宅主屋、離れ（2棟）		
47			市指定文化財	市指定有形文化財		小谷石造五輪塔	100				高井家住宅主屋、土蔵一、土蔵二（3棟）	
48							薬師堂石造五輪塔			101		水田家住宅主屋、書院、内蔵、北蔵（4棟）
49							一乗寺石造九重塔			102		大信寺本堂（1棟）
50							坂石石造五輪塔	103		北条鉄道法華口駅本屋及びプラットホーム、 北条鉄道法華口駅便所、		
51				常行院石造七重塔					播磨下里駅本屋及びプラットホーム、 長駅本屋及びプラットホーム（4棟）			
52			普光寺石造宝篋印塔	104	県登録文化財	県登録有形文化財	一乗寺開山堂					
53			奥山寺仁王門	105				青野原俘虜収容所将校用風呂棟				

資料：加西市

②観光

- ・観光入込客数は増加傾向（令和元年度 110 万人）
- ・代表的な観光地は、兵庫県立フラワーセンター、勤労者体育センター、古法華自然公園、青野運動公園、いこいの村はりま

本市への観光入込客数は、平成 22 年度から通して日帰り客も宿泊客も増加の傾向を見せており、令和元年度には合計で年間約 110 万人になりました。

代表的な観光地としては、兵庫県立フラワーセンター、勤労者体育センター、古法華自然公園、青野運動公園、いこいの村はりま、などが挙げられます。（『加西市歴史文化基本構想』（平成 30 年 3 月）による）

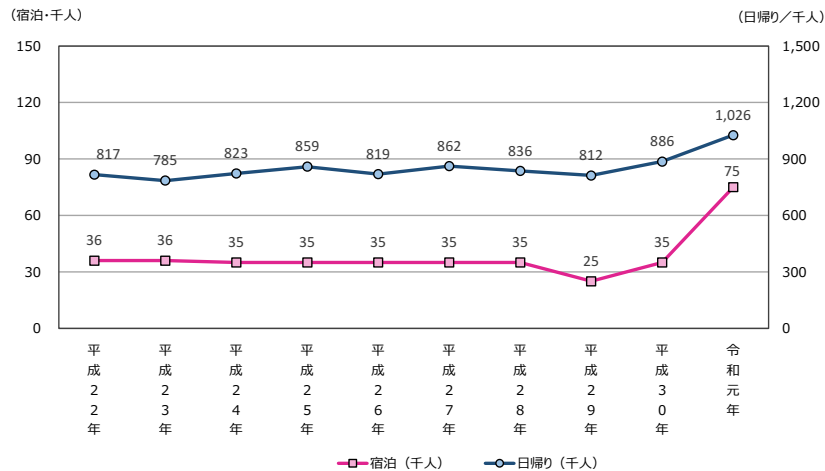


図 観光客の推移

資料：兵庫県観光客動態調査報告書

表 観光客の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
宿泊 (千人)	36	36	35	35	35	35	35	25	35	75
日帰り (千人)	817	785	823	859	819	862	836	812	886	1,026
合計 (千人)	853	821	858	894	854	897	871	837	921	1,101

資料：兵庫県観光客動態調査報告書

表 主要施設の観光入込客数の推移

表 2-3 観光入込客数の推移（「加西市産業振興計画（平成 28 年度）」より作成）（単位：人／年）

主な観光地点等	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
法華山一乗寺	95,000	95,000	79,000	45,214	45,501	43,859
五百羅漢	10,266	8,855	8,579	11,037	10,478	10,202
玉丘史跡公園	29,740	34,230	30,257	35,458	48,780	31,553
根日女の湯	98,893	93,602	47,701	—	—	—
いこいの村はりま	59,197	50,564	50,908	51,019	54,586	55,862
兵庫県立フラワーセンター	168,961	193,552	223,496	225,057	213,819	225,672
丸山総合公園	21,716	23,225	20,282	19,039	16,492	22,858
古法華自然公園	42,760	46,980	34,840	48,086	68,115	62,646
NPO法人原始人の会 都市農村交流施設	7,285	9,897	10,866	10,455	13,839	16,776
青野運動公園	72,926	69,987	69,797	70,390	67,621	68,138
勤労者体育センター	—	—	69,069	84,629	79,118	83,896
加西カントリークラブ	55,465	57,532	59,081	51,438	56,681	56,897
タカガワオーセントゴルフ倶楽部	45,550	43,684	39,164	42,213	45,423	42,149
播州東洋ゴルフ倶楽部	26,186	31,269	40,519	40,868	43,610	45,716
加西インターカントリークラブ	25,893	25,126	24,675	38,307	29,697	25,902
北条節句まつり	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
かさい夏っ彩夢フェスタ（～H24） 加西サイサイまつり（H25～）	29,000	30,000	23,000	16,000	25,000	25,000
北条の宿はくらんかい	18,000	15,000	25,000	28,000	25,000	15,000
グリーンパークトライアスロン	5,000	—	—	—	—	—
じば産物産展	—	—	8,000	6,500	8,800	9,000
播磨国風土記 1300 年祭	—	—	—	—	14,500	—
合計	841,838	858,503	894,234	853,710	897,060	871,126

出典：加西市歴史文化基本構想（平成 30 年 3 月）

(5) 都市の構造

1) 交通体系

- ・市の中心に東西軸となる中国自動車道、市の南端に山陽自動車道が整備
- ・姫路市から京都を結ぶ国道372号や中心市街地を走る三木宍粟線等、近隣地域とのアクセス良好

高速道路については、本市のほぼ中央を横断する形で中国自動車道が走り、加西インターチェンジが加西市のほぼ中央に位置しています。加えて、本市の南端をかすめる形で山陽自動車道が走り、加古川北インターチェンジは加西市に近接しています。

市内の道路網は、姫路市から京都を結ぶ国道372号や、中心市街地を走る三木宍粟線等があり、近隣地域とのアクセスも充実しています。

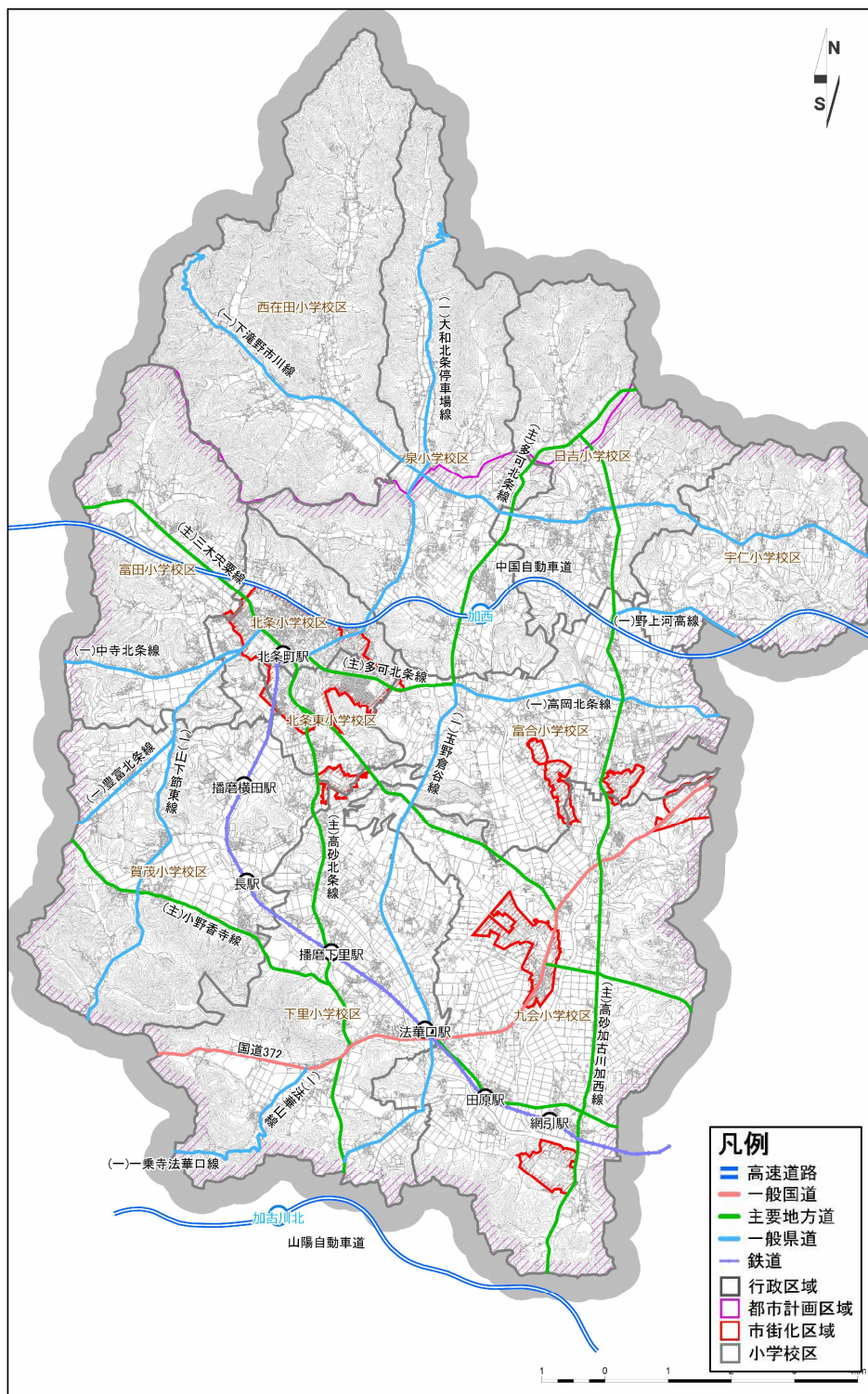


図 交通網図

資料：加西市

2) 土地利用と土地利用規制

①土地利用の現状と推移

・令和2年現在、「その他」（「牧場」、「池沼」、「鉱泉地」、「雑種地」の合計）が総面積の34.0%、「山林」が28.4%、田と畑を合わせた「農地」が26.4%、「宅地」が7.7%、「原野」が3.7%

地目別の土地利用の推移を見ると、大きな変化は無いものの、田、山林、原野が少しずつ減少し、宅地とその他の比率が上がる傾向にあります。

令和2年現在、「その他」（「牧場」、「池沼」、「鉱泉地」、「雑種地」の合計）が総面積の34.0%、「山林」が28.4%、田と畑を合わせた「農地」が26.4%、「宅地」が7.7%、「原野」が3.7%となっています。

表 土地利用の現状と推移（地目別面積の推移）

地目	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
田	35.19	35.13	35.07	35.05	34.99	34.95	34.91	34.81	34.75	34.70	34.64	34.52	34.32
畑	4.99	4.99	5.05	5.07	5.07	5.05	5.04	4.96	4.94	4.77	4.75	4.76	4.94
宅地	11.13	11.24	11.31	11.39	11.40	11.34	11.37	11.39	11.52	11.57	11.57	11.67	11.74
山林	43.05	43.07	43.07	43.07	43.08	43.10	43.10	43.04	42.94	43.01	42.76	42.64	42.63
原野	6.48	6.48	6.28	6.28	6.33	6.34	6.32	6.27	5.59	5.56	5.54	5.52	5.51
その他	49.35	49.28	49.41	49.33	49.32	49.41	49.45	49.75	50.48	50.61	50.96	51.11	51.08
合計	150.19	150.19	150.19	150.19	150.19	150.19	150.19	150.22	150.22	150.22	150.22	150.22	150.22

資料：加西市統計書

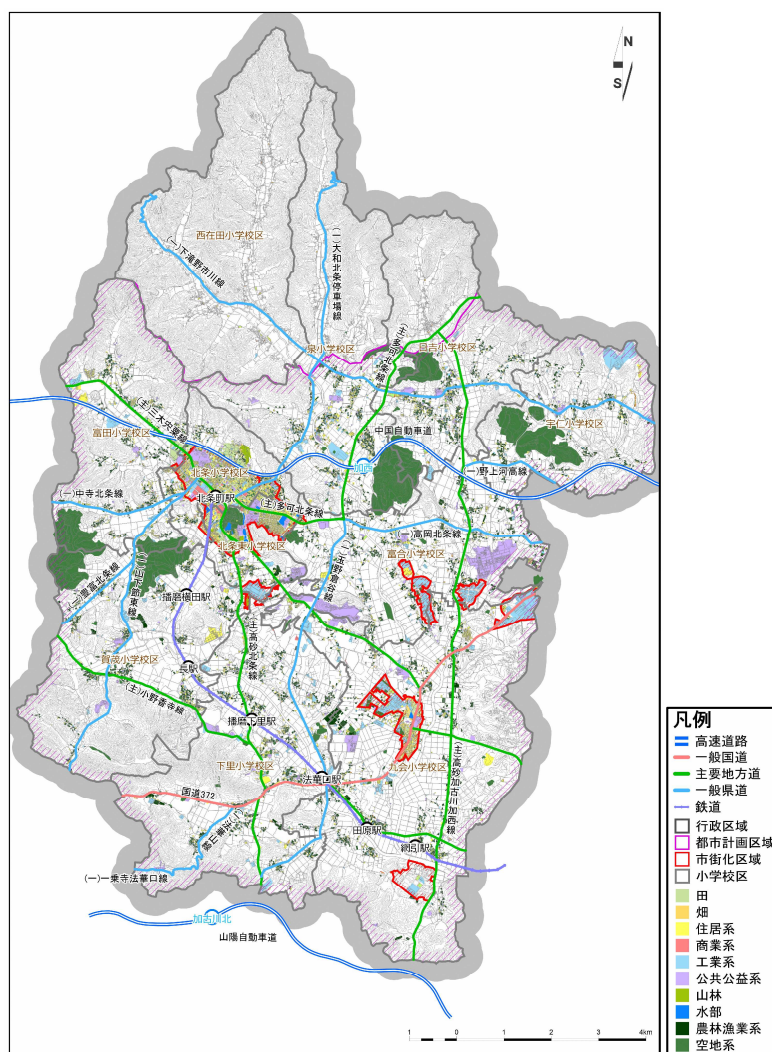


図 土地利用現況図（※H26以降に土地利用が変更されたデータのみ）

資料：兵庫県

②市街化の動向

- ・近年の農地転用（農地法4条及び5条）の動きは、年間500～1,000a程度で推移
- ・近年の建築着工は、概ね年間に300～400棟、延べ床面積にして6万～8万㎡の建物が新築

近年の農地転用（農地法4条及び5条）の動きは、年間500～1,000a程度で推移していますが、平成30年には突発的に2,500aを超える転用が見られました。農地転用の多くは、農地法第1条に基づくものであり、農地の所有者が自ら農地以外の用途に転用するのではなく、転用した土地を売買または賃貸借するケースが多いと言えます。

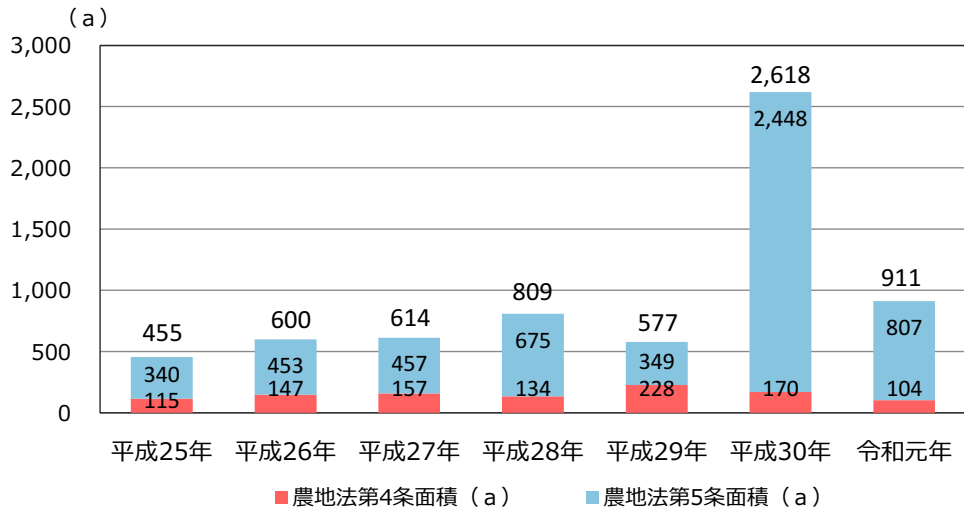


図 農地転用面積の推移

資料：加西市ホームページ（農業委員会事務局）

表 農地転用面積の推移

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
農地法第4条面積 (a)	115	147	157	134	228	170	104
農地法第5条面積 (a)	340	453	457	675	349	2,448	807
合計面積 (a)	455	600	614	809	577	2,618	911

資料：加西市ホームページ（農業委員会事務局）

近年の建築着工の状況を見ると、年によって多少変動していますが、概ね年間に 300～400 棟、延べ床面積にして 6 万～8 万㎡の建物が新築されています。その内訳を見ると、床面積の合計では住宅用途よりも住宅以外の建物の方が多く、特に製造業用建築物、農林水産業用建築物、卸売業、小売業用建築物、教育、学習支援業用建築物、公務用建築物、医療・福祉用建築物などが多くなっています。

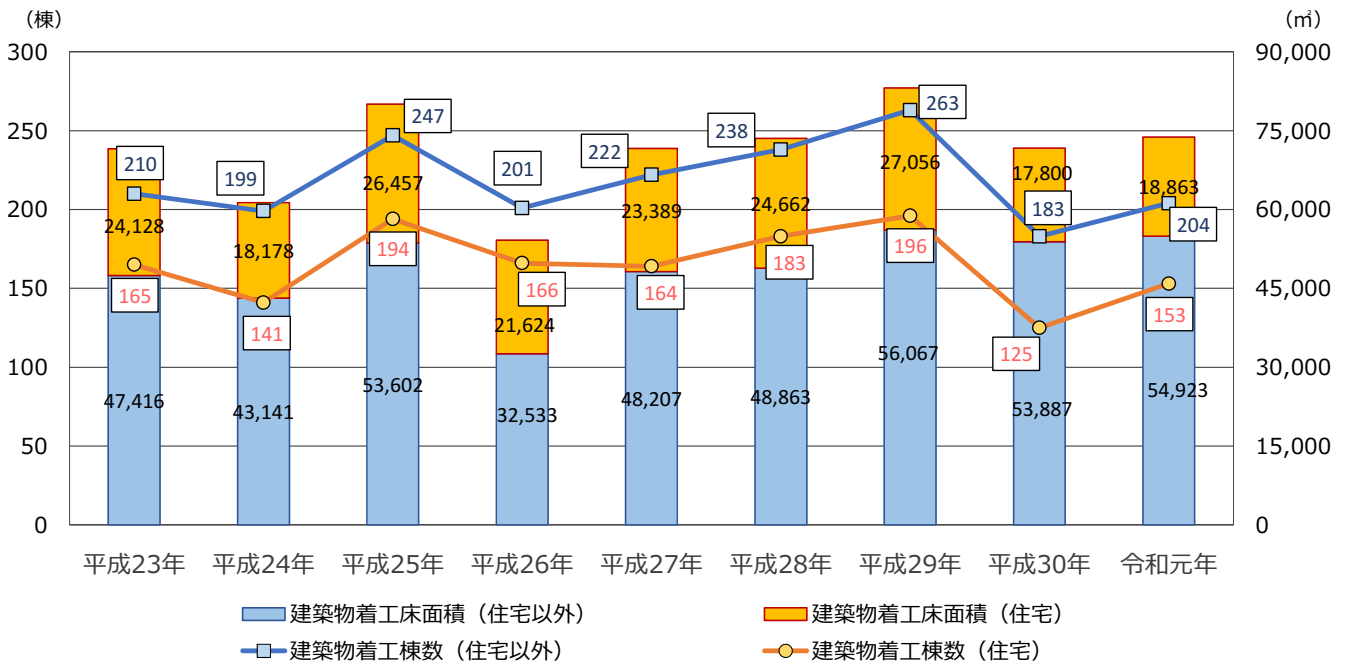


図 着工建築物の推移

資料：建築着工統計調査

表 着工建築物の推移

		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
建築物着工棟数 (棟)	住宅以外	210	199	247	201	222	238	263	183	204
	住宅	165	141	194	166	164	183	196	125	153
	合計	375	340	441	367	386	421	459	308	357
建築物着工床面積 (㎡)	住宅以外	47,416	43,141	53,602	32,533	48,207	48,863	56,067	53,887	54,923
	住宅	24,128	18,178	26,457	21,624	23,389	24,662	27,056	17,800	18,863
	合計	71,544	61,319	80,059	54,157	71,596	73,525	83,123	71,687	73,786

資料：建築着工統計調査

表 用途別着工建築物の数、床面積（令和元年度）

	居住専用住宅	居住専用準住宅	農林水産業用建築物	製造業用建築物	電気・ガス・熱供給・水道業用建築物	卸売業、小売業用建築物	教育、学習支援業用建築物	医療、福祉用建築物	その他のサービス業用建築物	公務用建築物	他に分類されない建築物
建築物の数【棟】	161	3	10	13	1	5	4	3	1	4	2
床面積の合計【㎡】	21,416	45	1,986	25,334	77	9,100	1,855	542	293	1,278	52

資料：2019 年度建築着工統計調査

③土地利用規制

1. 用途地域等

- ・都市計画区域のうち、市街化区域の割合は 4.6% (543ha)、市街化調整区域は 95.4% (11,256ha)
- ・平成 27 年の行政区域内人口に占める市街化区域内人口は 11,916 人 (26.9%)
- ・工業系用途地域の割合が 41.3%と特徴的 (住居系 55.6%、商業系 3.1%)

本市の行政区域に占める都市計画区域の割合は 78.6% (11,799ha)、都市計画区域外は 21.4% (3,220ha) となっています。都市計画区域のうち、市街化区域の割合は 4.6% (543ha)、市街化調整区域は 95.4% (11,256ha) となっています。

平成 27 年の行政区域内人口に占める市街化区域内人口は 11,916 人 (26.9%)、市街化調整区域内人口は 28,727 人 (64.8%) となっています。

本市の用途地域は、工業地域が 26.3%占めているなど、工業系用途地域の占める割合が合計で 41.3%と高いことが特徴となっています。また、その他住居系の用途地域が 55.6%、商業系の用途地域が 3.1%となっております。

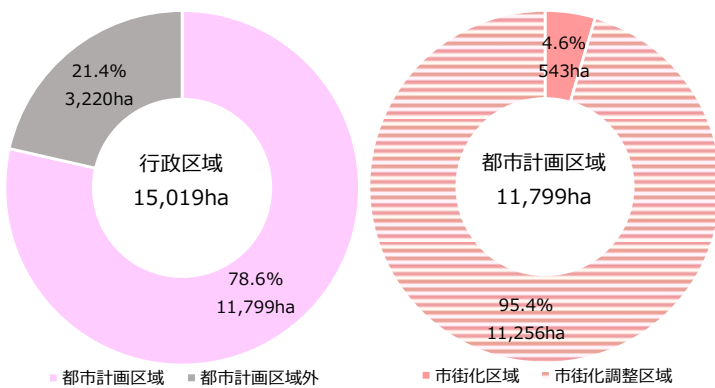


図 都市地域の面積

資料：加西市

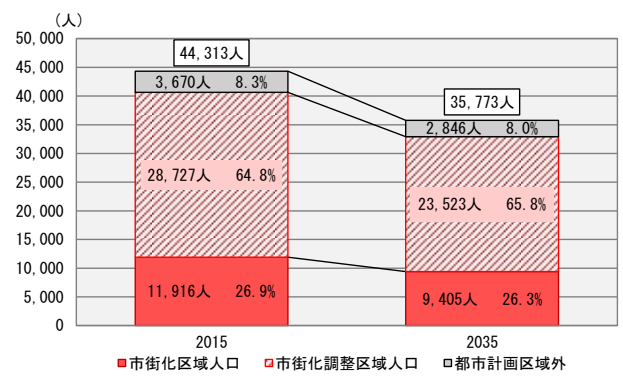


図 都市計画区域内人口の内訳 (2015 年、2035 年)

勢調査

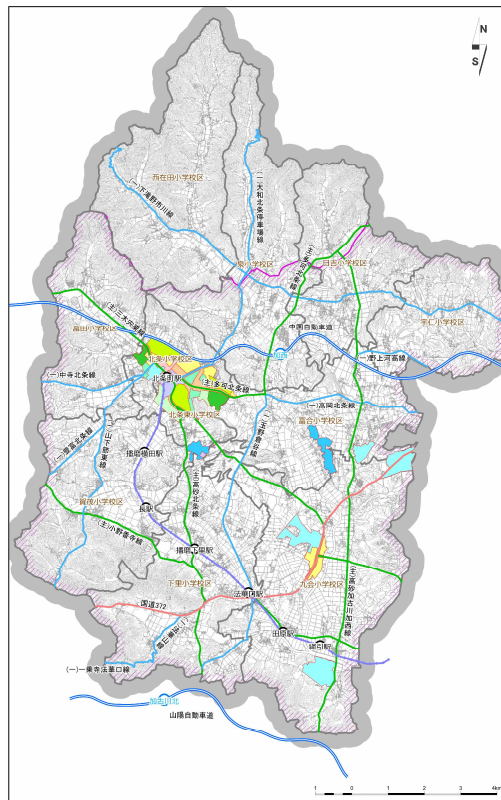


図 用途地域の指定状況

表 用途地域の指定状況

名称	面積 (ha)	割合 (%)
第一種低層住居専用地域	31	5.7
第二種低層住居専用地域	35	6.4
第一種中高層専用地域	70	12.9
第二種中高層専用地域	32	5.9
第一種住居地域	74	13.6
第二種住居地域	60	11.0
住居系	302	55.6
近隣商業地域	17	3.1
商業系	17	3.1
準工業地域	27	5.0
工業地域	143	26.3
工業専用地域	54	9.9
工業系	224	41.3
合計	543	200.0

資料：加西市

2. 地区計画

- ・地区計画は計 19 地区、計 375.1ha
- ・市街化区域内は 12 地区（293.8ha）で占める割合 54.1%、市街化調整区域内は 7 地区（81.3ha）

本市の地区計画は、計 375.1ha、計 19 地区あります。そのうち、市街化区域内には 12 地区（293.8ha）あり、市街化区域に占める割合は半数を超える 54.1%で、用途は主に住居系や産業系となっています。市街化調整区域内には主に産業系の地区計画が 7 地区（81.3ha）あります。

表 地区計画の状況

名称	用途	面積(ha)
横尾地区	住宅系	2.2
横尾南部地区	住宅系及び産業系	5.4
加西インター産業団地地区	産業系	48
加西工業団地地区	産業系	33.8
加西東産業団地地区	産業系	20.1
加西南産業団地	産業系	51.4
玉丘地区	住居系	2.6
西高室地区	住居系	11.6
倉谷町産業公園地区	産業系	5
中野地区	住宅系及び産業系	49.5
鎮岩工業団地	産業系	22.6
東高室次世代へのまちづくり産業立地促進地区	産業系	5
東高室地区	都市機能系	6.4
繁昌町国道372号沿線地区	産業系	43
尾崎町北条高校前地区	住居系	1.8
北条町西部地区	都市機能系	13.2
鶉野上町産業集積地区	産業系	6.2
鶉野飛行場跡地地域資源活用地区	観光系	8.9
鶉野飛行場跡地東部産業拠点地区	産業系	38.4

資料：加西市

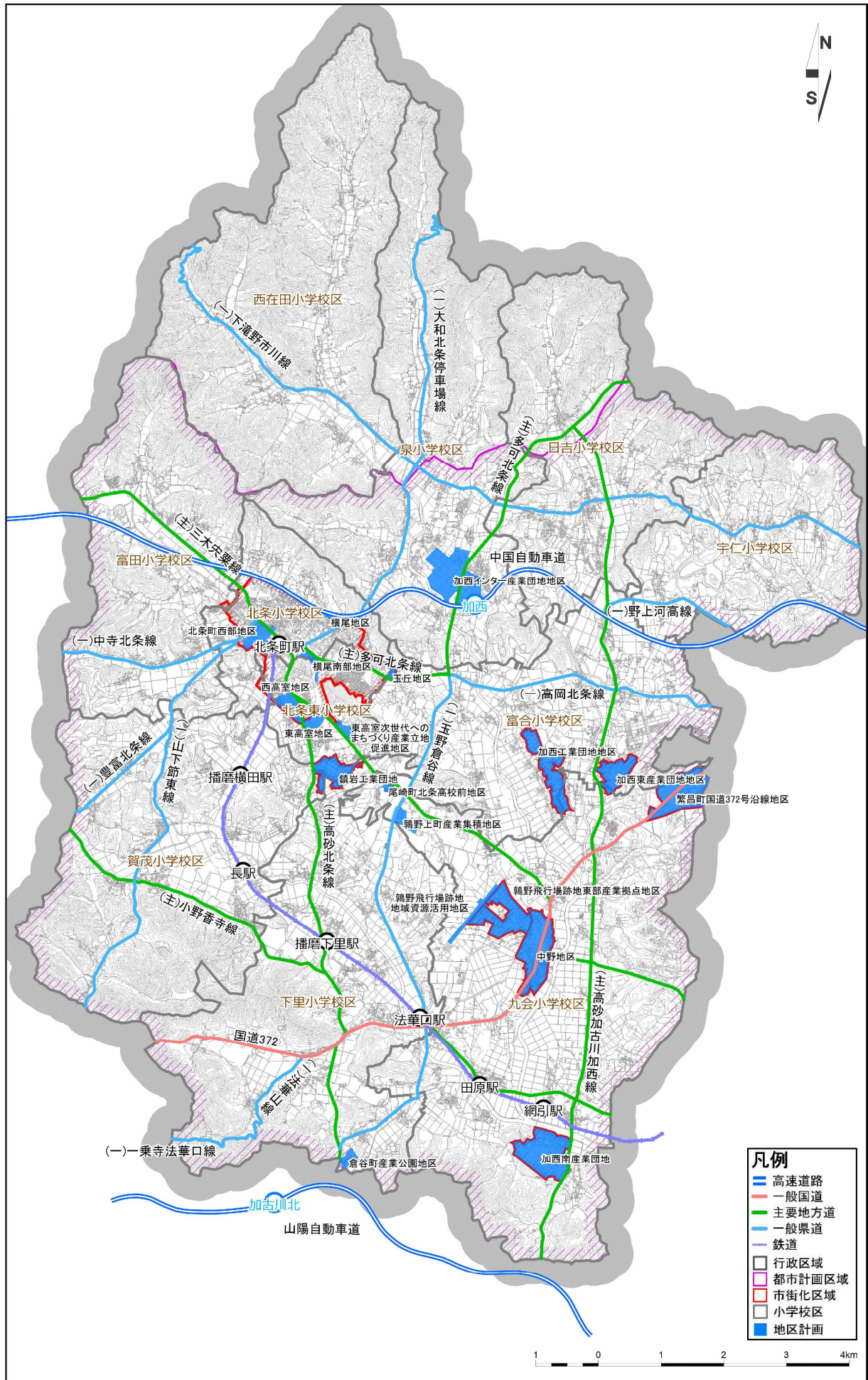


図 地区計画の状況

資料：加西市

3. 特別指定区域

・人口増政策の一環として、厳しい建築制限が課せられている市街化調整区域の規制緩和に取り組み、市内には特別指定区域が107地区存在

加西市は、市域の3分の2が開発を抑制する市街化調整区域に定められています。建築制限等により、農家住宅や農業用倉庫などを除いて、原則、一般住宅や工場の建設ができません。

このため、市街化調整区域の出身者が実家近くに住宅を構えられず、居住者が減少して、集落の活力が低下するなどの問題があらわれています。

このような市街化調整区域の課題に対応するため、兵庫県は平成14年に特別指定区域制度を創設しました。特別指定区域制度には、用途型として9つのメニューと目的型として4つのメニューがあり、指定された区域内では、建築制限が緩和され地域の課題解決のために必要な建築物が建築できるようになる制度です。

平成27年に、用途型を廃し8つの目的型に統合されました。(平成27年以前に指定された用途型の指定はそのまま有効です)

区域指定には兵庫県が定めた基準に基づき、長期(1年以上)の審査を経て、県が指定します。

また、区域内では建築制限の緩和にあわせ、住環境の保全のために「加西市市街化調整区域まちづくり要綱」により、建築ルールを定めています。

表 特別指定区域の状況

区域名	地区名	指定基準
工場、店舗等周辺区域	豊倉町	県道玉野倉谷線沿道商業・サービス施設集積型
		県道玉野倉谷線沿道流通業施設集積型
	殿原町	中国道加西インター北部産業施設集積型
	鶉野南町	鶉野南町国道372号沿道産業施設集積型
	鴨谷町	県道大和北条停車場線沿道産業施設集積型
	畑町	県道三木穴栗線沿道産業施設集積型
地域活力再生等区域	北条地区	地縁者の住宅区域、地縁者の小規模事業所区域
	富田地区	
	加茂地区	
	下里地区	
	九会地区	
	富合地区	
	日吉地区	
	在田地区	
地域資源活用区域	下里地区	人口減少集落区域西笠原グリーンタウン型
	宇仁地区	地縁者の住宅区域
		加西市農業資源活用型
東笠原町	鶉野飛行場南部歴史資源活用型	
工場等誘導区域	西上野町	既存事業所の拡張区域
	鎮岩町	
	東剣坂町	
	大村町	
	山枝町	既存事業所活用型(拡張タイプ)
	鶉野中町	
	別所町	
	山田町	
	西野々町	
	笹倉町	既存事業所活用型(用途変更タイプ)
	西野々町	地域産業振興型

資料：加西市

④都市施設

1. 都市計画道路

・計画総延長 16,750m、整備済総延長 11,830m、整備率 70.6%

都市計画道路の直近の見直しは平成 30 年（2018）に 2 回目の見直しが行われ、現在は 12 路線、計画総延長 16,750m が都市計画決定されており、整備済総延長 11,830m で整備率 70.6% となっています。

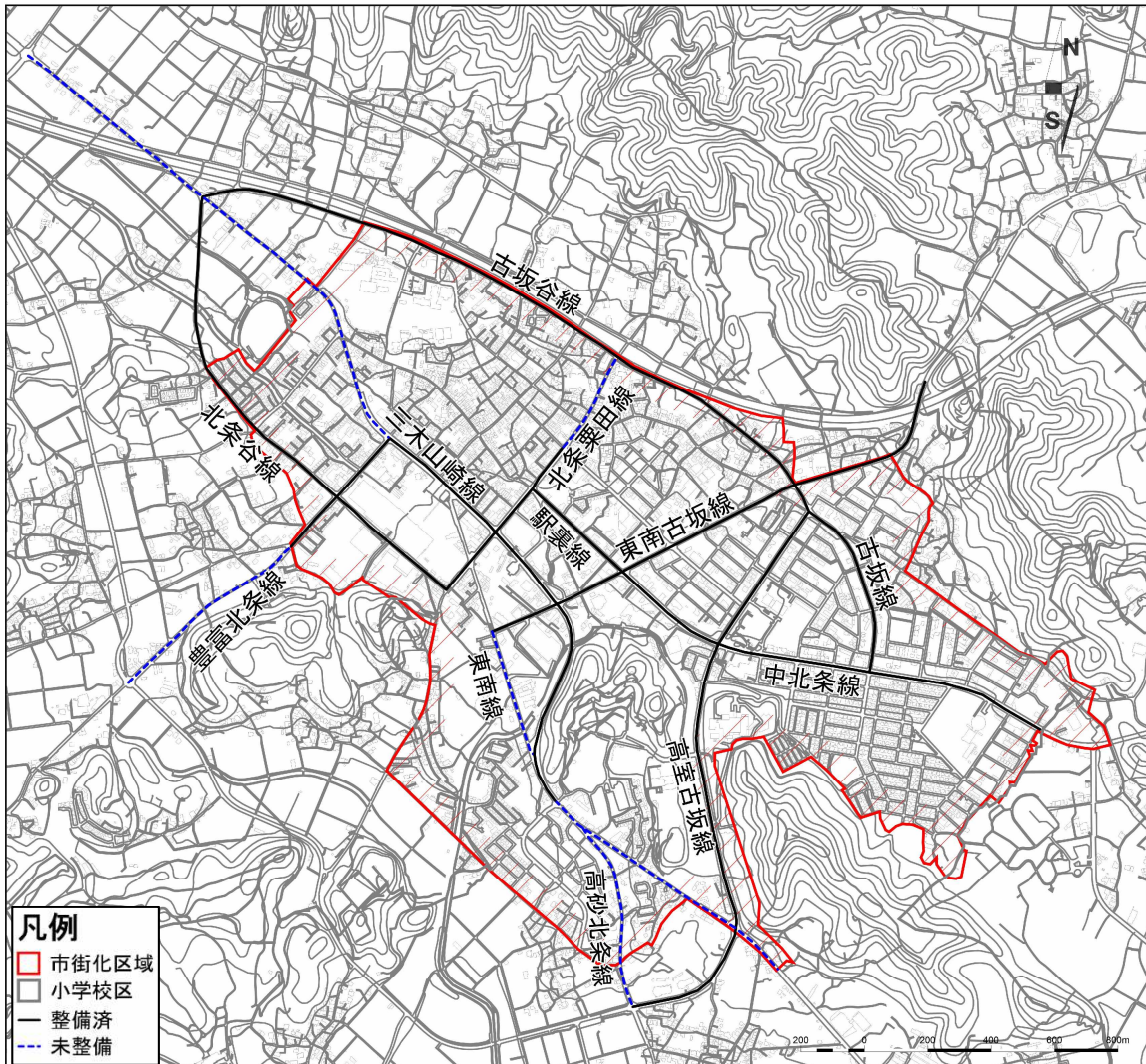


図 都市計画道路の整備状況

資料：加西市

表 都市計画道路の整備状況

路線名	計画延長(m)	整備済延長(m)	整備済(%)
北条栗田線	880	530	60.2
三木山崎線	3,930	960	24.4
高砂北条線	600	0	0.0
豊富北条線	1,180	580	49.2
東南古坂線	1,660	1,660	100.0
東南線	400	0	0.0
中北条線	1,460	1,460	100.0
北条谷線	1,590	1,590	100.0
駅裏線	370	370	100.0
古坂線	560	560	100.0
高室古坂線	1,860	1,860	100.0
古坂谷線	2,260	2,260	100.0
計	16,750	11,830	70.6

資料：加西市

2. 都市計画公園等

- ・計画総面積 23.88ha、供用済総面積 17.00ha、整備率 71.2%
- ・一人当たり公園面積 5.4㎡（兵庫県 10.9㎡）

都市計画公園は9箇所、総面積 23.88ha が都市計画決定されており、供用面積は 17.00ha で整備率 71.2% となっています。

また、本市の1人当たりの公園面積は 5.4㎡となっており、兵庫県の1人当たりの公園面積 10.9㎡より低い水準となっています。

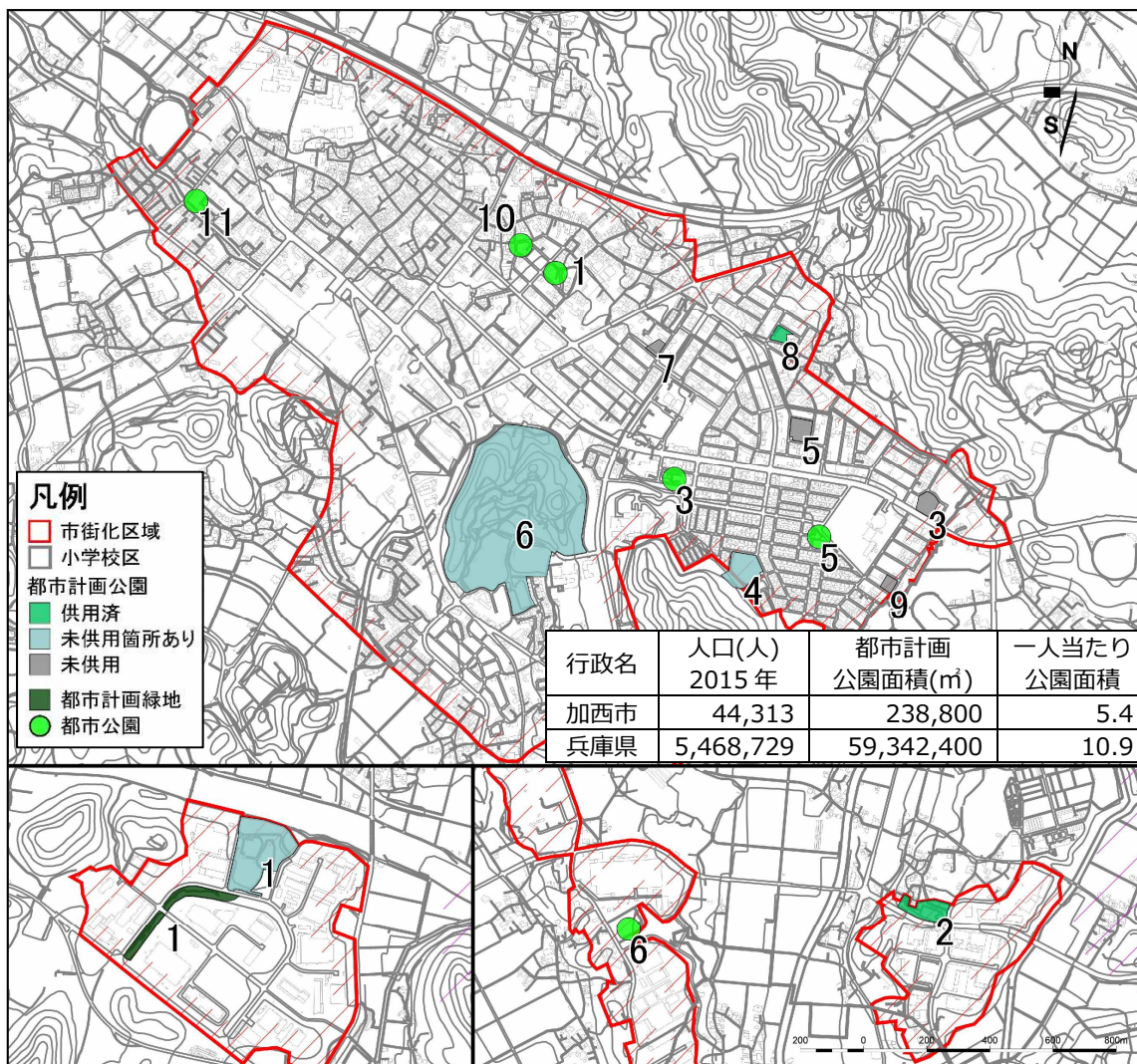


図 都市計画公園・緑地、都市公園の状況

資料：加西市

表 都市計画公園・緑地、都市公園の状況

No	都市計画公園	計画面積(ha)	供用済面積(ha)	整備済(%)	No	都市計画緑地	面積(ha)
1	網引公園	3.60	3.54	98.3	1	網引緑地	0.87
2	常吉公園	0.60	0.60	100.0			
3	まんじゅう塚公園	0.37	0	0.0	No	都市公園	
4	向山公園	1.00	0.80	80.0	1	大坪公園	
5	笹塚公園	0.46	0	0.0	2	ハイツ第1公園	
6	丸山総合公園	17.30	11.85	68.5	3	さつき公園	
7	城之内公園	0.17	0	0.0	4	朝妻公園	
8	吉本公園	0.21	0.21	100.0	5	井ノ岡公園	
9	横座公園	0.17	0	0.0	6	曾根公園	
	計	23.88	17	71.2			

資料：加西市

3. 下水道

- ・ 汚水は計画面積 824.0ha、供用済面積 423.0ha、整備率 51.3%
- ・ 雨水は計画面積 499.0ha、供用済面積 290.0ha、整備率 58.1%

本市の下水道は、計画処理区域（汚水）面積は 824.0ha、供用済面積 423.0ha、整備率 51.3%、計画排水区域（雨水）面積は 499.0ha、供用済面積 290.0ha、整備率 58.1%となっています。

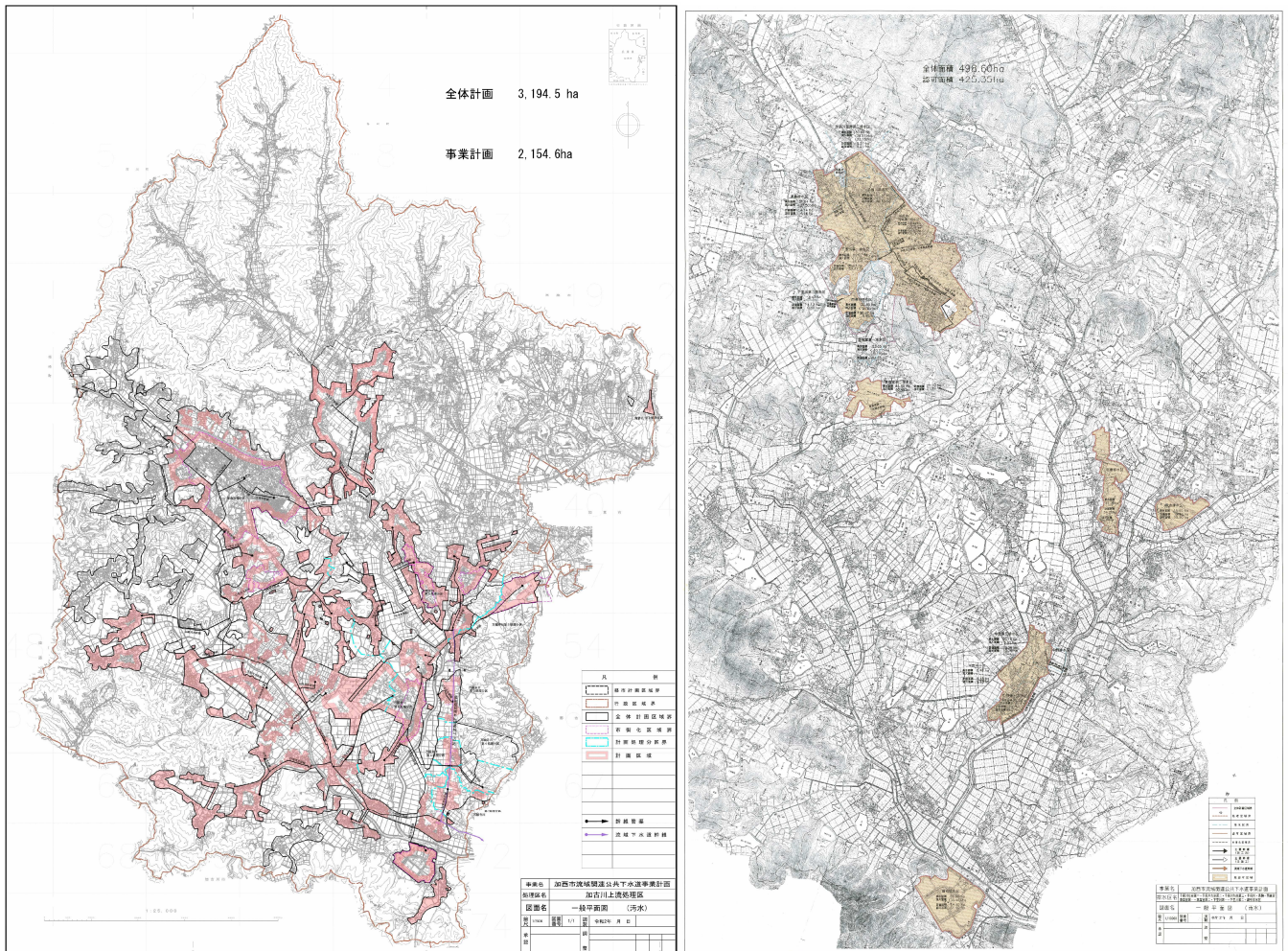


図 下水道の状況

資料：加西市

4. 市街地開発事業

・本市の土地区画整理事業は2地区、市街地再開発事業は1地区（全て整備済）

本市の土地区画整理事業は、北条東（19.6ha）、横尾・古坂（39.8ha）に1地区ずつあり、2地区とも整備完了となっています。

市街地再開発事業は、北条駅周辺に1地区（2.0ha）あり、整備完了となっています。なお、同地区が高度利用地区に指定されています。

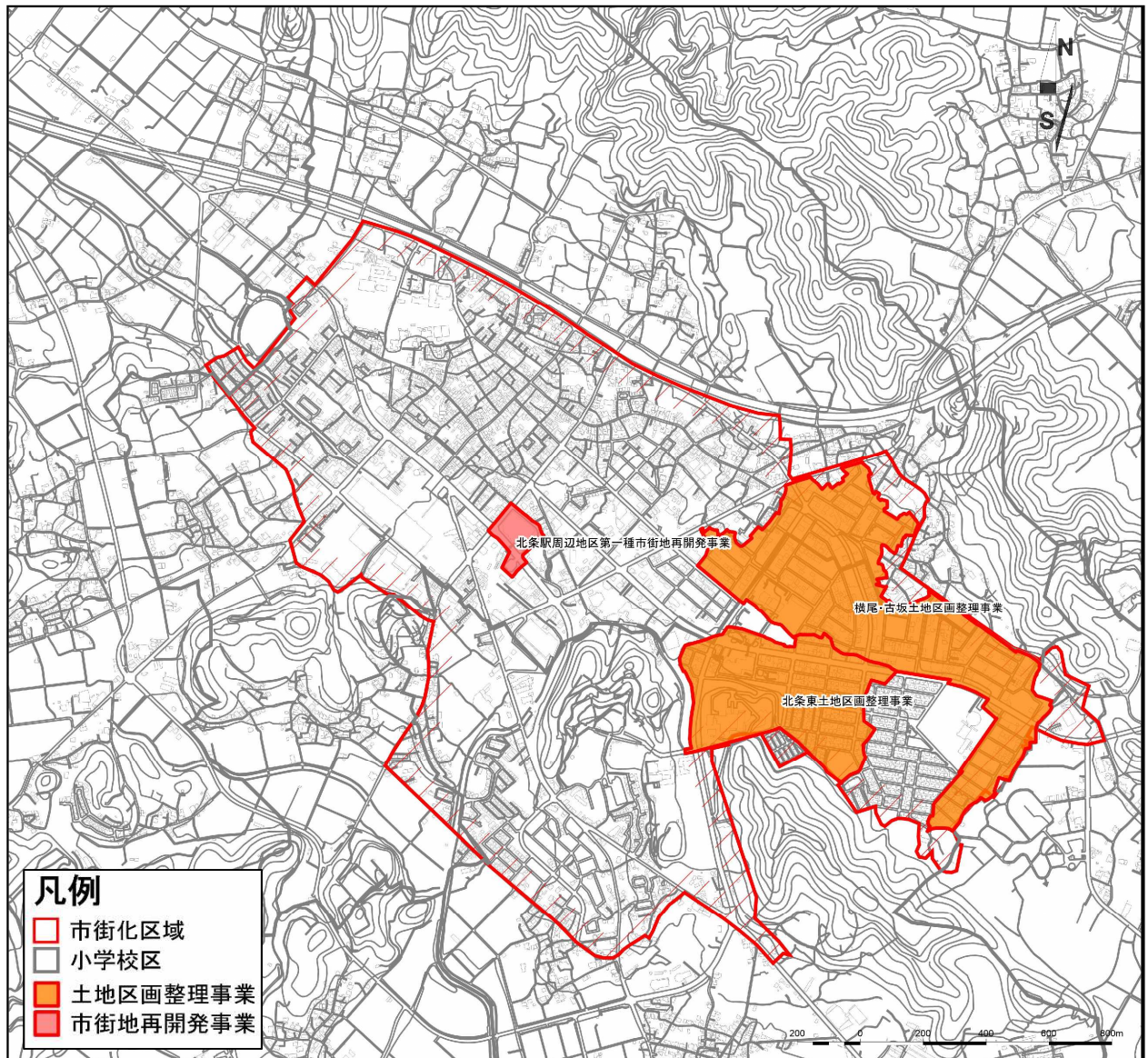


図 土地区画整理事業、市街地再開発事業

資料：加西市

3) 建物

①建物利用

・建物利用現況は住居施設が31.0%、農林業住宅25.7%、工業施設12.8%の順

本市の建物利用現況は、住居施設が31.0%と最も多く、次いで、農林業住宅25.7%、工業施設12.8%の順となっています。

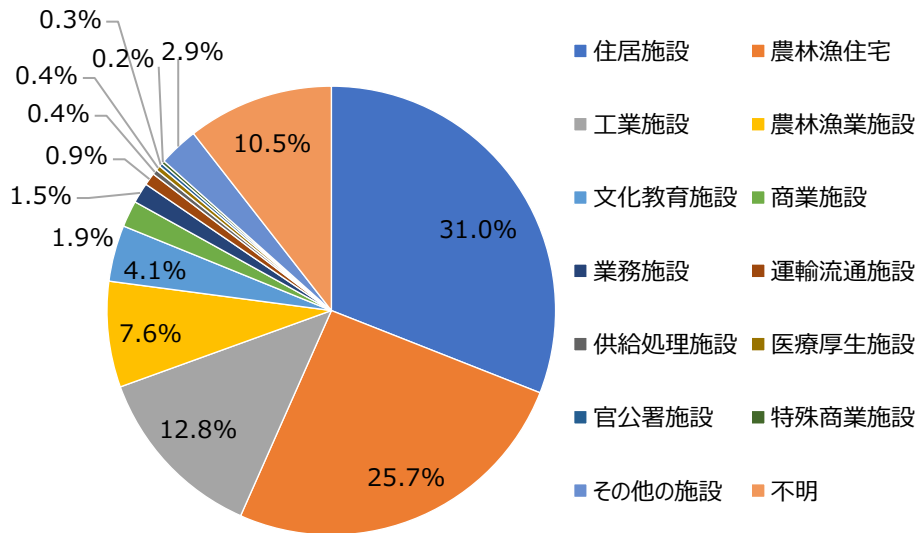


図 建物利用現況図（用途）

資料：兵庫県

②空き家

- ・市内の住宅数はほぼ一貫して増加しており、平成30年には18,040戸
- ・空き家は増加傾向で平成30年は12.9%（兵庫県平均13.4%）であり、近隣市より低い値

市内の住宅数はほぼ一貫して増加しており、平成30年には18,040戸となっています。また、空き家の数も、住宅総数の増加を上回るスピードで増加し続けており、平成30年における空き家数は2,330戸、空き家率は12.9%に達しています。この本市の空き家率12.9%は、兵庫県平均（13.4%）とほぼ同程度であり、近隣の姫路市（15.0%）や西脇市（17.3%）などより低い数値です。

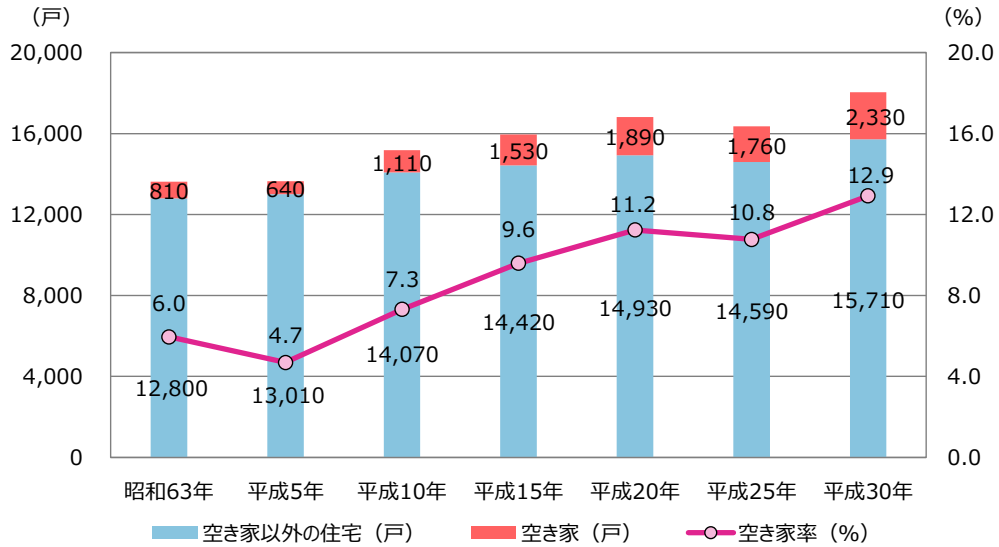


図 空き家数、空き家率の推移

資料：住宅・土地統計調査

表 近隣都市の空き家数、空き家率（平成30年度）

	住宅総数 (戸)	空き家数 (戸)	空き家率 (%)
兵庫県	2,680,900	360,200	13.4
加東市	20,220	4,460	22.1
西脇市	17,620	3,040	17.3
多可町	7,610	1,280	16.8
姫路市	251,780	37,660	15.0
加西市	18,040	2,330	12.9
福崎町	8,220	1,040	12.7
小野市	19,320	2,200	11.4
加古川市	113,860	12,220	10.7

資料：平成30年住宅・土地統計調査

4) 移動

・転居先として最も多いのは北条東 (126 人)、次いで、北条 (87 人)、富合 (50 人)

平成 28 年から令和 2 年の市内の転居データによると、同校区移動を除く転居先として最も多いのは、北条東 (126 人)、次いで、北条 (87 人)、富合 (50 人) の順となっています。

最も転居者が多いのは北条 (154 人) であり、転居先として最も多いのは北条東 (68 人)、富田 (19 人)、泉・下里 (15 人) となっています。

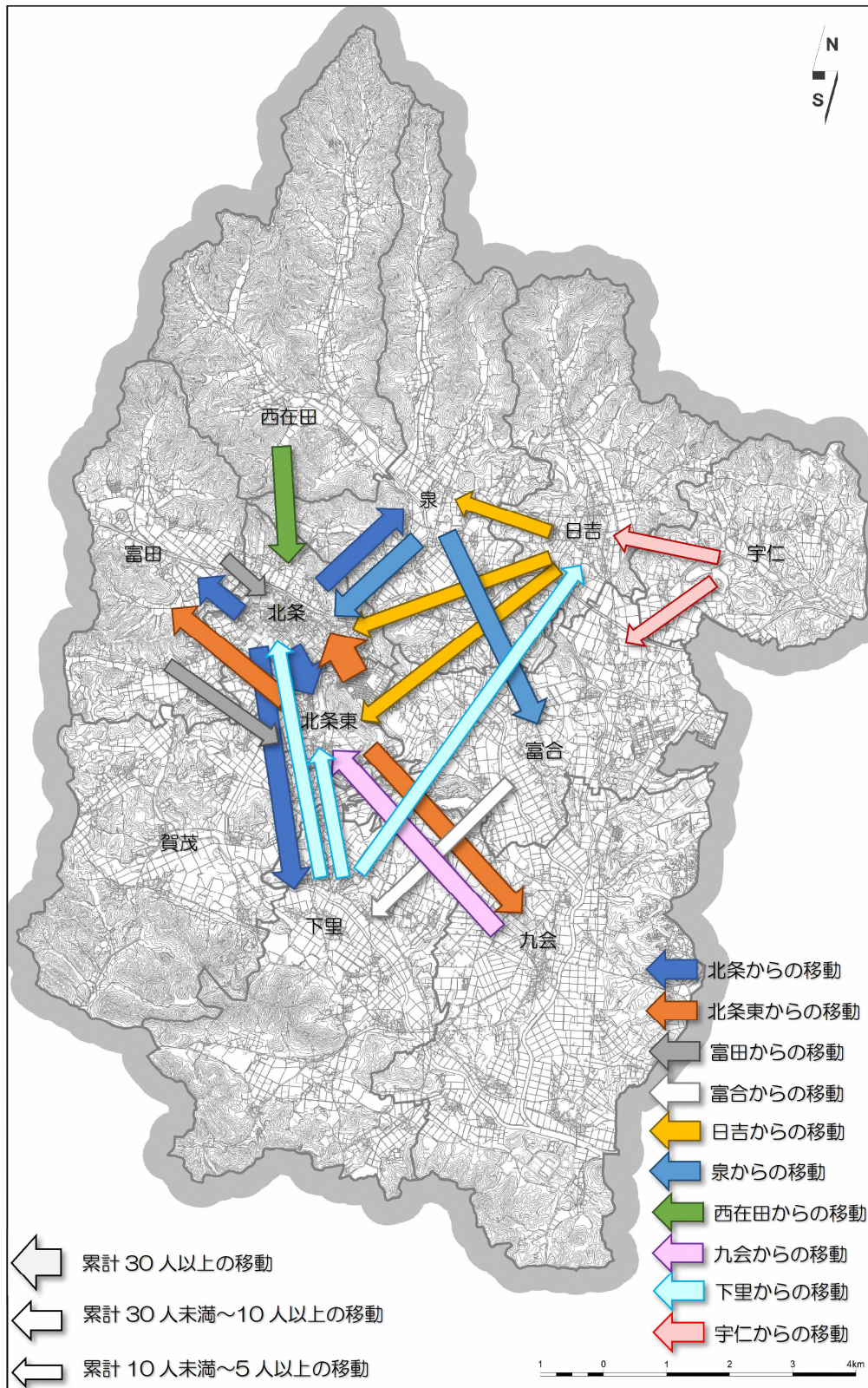


図 市内移動 (H28-R2 累計)

※北条、北条東、泉、西在田、九会は「累計 30 人以上の移動」「累計 30 人未満～10 人以上の移動」のみ表示

資料：加西市

表 市内移動 (H28-R2 累計)

移動前 \ 移動先	北条	北条東	富田	富合	日吉	泉	西在田	九会	賀茂	加賀	下里	宇仁	計 (同校区移動を含む)	計 (同校区移動を含まない)
北条	102	68	19	9	6	15	4	5	1	6	15	6	256	154
北条東	37	39	18	7	0	7	5	15	7	3	7	0	145	106
富田	9	7	10	0	0	0	1	1	0	0	0	1	29	19
富合	1	4	0	8	0	0	0	0	0	0	5	0	18	10
日吉	7	6	0	0	10	5	1	0	0	0	0	1	30	20
泉	13	3	2	21	1	21	1	0	1	0	0	0	63	42
西在田	4	10	0	0	0	4	2	0	0	1	0	0	21	19
九会	5	17	0	6	0	1	0	39	0	0	3	0	71	32
賀茂	2	4	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	12	6
加賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
下里	9	6	0	2	5	0	0	2	1	0	15	0	40	25
宇仁	0	1	0	5	5	0	0	0	0	0	0	6	17	11
計 (同校区移動を含む)	189	165	49	58	27	53	14	62	16	10	46	14		
計 (同校区移動を含まない)	87	126	39	50	17	32	12	23	10	10	31	8		

資料：加西市